

第二章 職 權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算

四 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

五 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各、其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

第十七條 現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證書書類ヲ檢

査シ其ノ誤謬ヲ指摘スルコトヲ得

○會計検査院事務章程第三十三條及委託検査取扱順序第三號ニ依ル報告若ハ出納官吏保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損ノ事實アルトキノ處理方ノ件

●院長決裁 昭和四年四月二十二日

會計検査院事務章程第三十三條又ハ委託検査取扱順序第三號ニ依リ本屬長官又ハ検査受託廳ノ報告アリタルトキ若ハ出納官吏カ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタル事實アルトキハ之ヲ事故簿ニ追調スル等適宜ノ手段ヲ講シ判決報告書又ハ再審開否ノ報告書提出ノ際ハ右追調ニ對シ其ノ事故照合濟ナル旨ヲ附記スルコト

○有責任判決追調簿ニ登記方ノ件

●院長決裁 昭和四年五月三十一日

出納官吏ニ對シ有責任ノ判決(勅令免除ノ)ヲ爲シタルモノハ別記様式ニ依リ之ヲ有責任判決追調簿(特設スヘ)ニ登記スルコト

様式

| 判決事項          |               | 昭和年月 | 日記入 |
|---------------|---------------|------|-----|
| 所管廳           | 所屬廳           | 年    | 月 日 |
| 會計年度          | 會計年度          | 年    | 月 日 |
| 計算書名          | 計算書名          | 年    | 月 日 |
| 出納官吏又ハ出納職員官氏名 | 出納官吏又ハ出納職員官氏名 | 年    | 月 日 |
| 判決々定年月日       | 判決々定年月日       | 年    | 月 日 |
| 判決ノ要旨         | 判決ノ要旨         | 年    | 月 日 |
| 辨償スヘキ金額       | 辨償額           | 年    | 月 日 |
| 減免セラレタルモノハ其事由 | 減免セラレタルモノハ其事由 | 年    | 月 日 |
| 認可狀交付年月日      | 認可狀交付年月日      | 年    | 月 日 |
| 備考            | 備考            | 年    | 月 日 |
| 處分ノ顛末         | 處分ノ顛末         | 年    | 月 日 |
| 判決ノ結果辨償スヘキ金額  | 判決ノ結果辨償スヘキ金額  | 年    | 月 日 |
| 處分年月日         | 處分年月日         | 年    | 月 日 |
| 摘要            | 摘要            | 年    | 月 日 |
| 金額            | 金額            | 年    | 月 日 |
| 殘高            | 殘高            | 年    | 月 日 |
| 備考            | 備考            | 年    | 月 日 |







第二章 會計検査院諸法規

第一條 院長官房ニ總務科及調査科ヲ置キ書記官各科ノ長トナリ科務ヲ掌理ス但事故アルトキハ他ノ書記官其ノ事務ヲ代行ス

總務科ニ祕書掛、議事掛、文書掛及會計掛ヲ置ク(昭和四年四月第三號ヲ以テ)

第二條 祕書掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 職員ノ進退身分賞罰ニ關スル事項
- 二 職員ノ裁位裁勳恩給ニ關スル事項
- 三 機密ニ關スル事項
- 四 官印及宮城御門鑑ノ管守ニ關スル事項
- 五 統計及官報報告ニ關スル事項
- 六 院長ノ決裁ヲ要スル文書ノ取扱ニ關スル事項
- 七 他掛ノ分掌ニ屬セサル事項

第三條 議事掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總會議案ノ整理配付ニ關スル事項
- 二 總會議ノ議事ニ關スル一切ノ事項
- 三 總會議決議ノ整理ニ關スル事項

第四條 文書掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 文書ノ受授及淨書校合ニ關スル事項
- 二 文書ノ保存及廢棄ニ關スル事項
- 三 圖書ノ貸借及保管ニ關スル事項
- 四 印刷ニ關スル事項
- 五 其他記録ニ關スル事項

第五條 會計掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 豫算決算及收入支出ニ關スル事項

二 國有財産ニ關スル事項

三 物品ノ出納及保管ニ關スル事項

四 營繕ニ關スル事項

五 備人ニ關スル事項

六 廳中ノ取締及衛生ニ關スル事項

第六條 調査科ハ左ノ事務ヲ掌ル(昭和四年四月第三號ヲ以テ改正)

- 一 各部課ヨリ院長ニ提出スル文書ノ調査ニ關スル事項(昭和四年四月第三號ヲ以テ追加)
- 二 豫算及決算ノ總括的調査ニ關スル事項(昭和四年四月第三號ヲ以テ追加)
- 三 前號ノ外検査資料ノ調査ニ關スル事項(昭和四年四月第三號ヲ以テ改正)
- 四 行務成績ノ調査ニ關スル事項
- 五 院長ノ命ニ依ル調査ニ關スル事項

附則

本規程ハ大正十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年十月院內達第十號院長官房事務規程及明治三十三年六月院內達第十二號物價取調規程ハ之ヲ廢止ス

○検査報告及検査成績書取調規程

明治三年第五號 改正三年第一〇號 三五年第一號第六號三七年第六號、四年第四號大正七年第一號

●院內達第五號 大正十一年五月十日

第一條 會計検査院法第十四條ノ報告書案及第十五條ノ成績書案取調ノ爲検査報告及検査成績書取調委員ヲ置ク委員ハ部長一名検査官三名副検査官四名ヲ以テ組織シ部長ヲ以テ委員長トス

通知案

會計検査院法第十六條委託検査ニ係ル計算ノ検査及責任解除ニ關シ其検査取扱順序別紙ノ通告定候條明治三十四年度分ヨリ施行相成度此段及通知候也

年 月 日 院 長

委託廳長官宛

誠信大臣へハ左ノ追書ヲ加フ

追テ郵便爲替貯金ニ關スル成績報告書式ハ従前ノ通ト御承知相成度此段申添候也

○検査事務規程第十七條ニ依ル朝鮮

臺灣關東州及樺太等ニ於ケル出納

官吏計算書ノ判決報告書中所管廳

ノ記載方ニ關スル件

●第三部長決裁 大正十三年七月二十日

一 出納官吏(朝鮮臺灣關東州及樺太等各特別會計所屬ノ)

ニ對スル判決報告書ノ所管廳ノ欄ニハ省名即チ大藏省

名ヲ記入スルコト(認可狀ニモ大藏省所管何年度ト記

スルコト一般ノ例ニ同シ)

但シ認可狀ハ直接ニ所管地ノ長官ヲ經由スルコトヲ表

示スル爲判決報告書ノ所管廳ノ欄省名ノ下ニ經由官廳

名ヲ括弧内ニ併記スルコト(例示大藏省(朝鮮總督府)ニ

二 省略



○検査事務規程第二十一條ニ依リ再  
審ヲ開始セサル報告書作製ノ場合  
取扱方ノ件

●院長決裁 昭和三年十月二十三日  
検査事務規程第二十一條ニ依リ再審ヲ開始セサル理由ヲ具  
シタル報告書ヲ作製スル場合ニ於テ(恩赦ニ依ル場合ヲモ  
含ム)其ノ再審事項カ所屬長官又ハ受託廳長官ノ申報ニ係  
ルモノナルトキハ再審ヲ開始セサル理由ヲ具シタル通牒書  
ヲ併セ提出スルコト(所屬長官又ハ受託長官ノ申報ニ係ル  
モノニ非スト雖特別ノ必要アリト認ムルトキ同斷)

○検査事務規程第二十四條ニ依ル通  
牒書案ノ處理方ニ關スルノ件

●院長決裁 大正十二年十一月十七日  
一 改正検査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ハ決定報  
告書ニ添附スヘキモノナルモ検査ノ結果總テ正當ト決  
定シ他ニ何等ノ事故ナク單ニ正當ノ旨ヲ通知スル場合  
ノ通牒書案ハ便宜決定報告書ニ「要通牒書發遣」ノ旨ヲ  
記載シテ通牒書案ノ添附ヲ省略スルコトヲ得  
二 前項ノ通牒書案ノ様式ハ別紙ノ如ク定メ決定報告書ニ  
通牒書案ノ添附ヲ省略セル場合ニ於テハ院長官房文書  
掛ニ於テ別紙様式ニ依ル通牒書ヲ調製スヘシ  
三 決定報告書ニ通牒書案ノ添附ヲ省略スルト否トニ拘ラ  
ズ通牒書發送ヲ要スヘキ決定報告書ニハ「要通牒書發  
遣」ノ旨記載スヘシ  
(別紙)

年月日

院長

所管大臣宛

何職官某ノ證明ニ係ル何年度何計算書ノ検査ヲ遂ケ正當ト  
決定候條此段及通牒候也

○検査事務規程第二十四條中所管大  
臣解釋ノ件

●院長決裁 大正十四年九月二十九日  
一 検査事務規程第二十四條中所管大臣トアルハ朝鮮關東  
州臺灣樺太及南洋ノ各地ニ本店ヲ有シ直接ニ其ノ地長  
官ノ監督ヲ受クル補助團體ノ場合ニ在リテハ其ノ地ノ  
長官トス  
二 検査事務規程第二十四條中所管大臣トアルハ内地ニ本  
店ヲ有シ直接ニ内閣總理大臣ノ監督ヲ受クル補助團體  
ノ場合ニ在リテハ内閣總理大臣トス  
三 前二項ノ場合ニ於ケル決定報告書所管廳ノ欄ニハ該監  
督官廳ヲ掲クルモノトス  
四 前各項ニ對シ特異ノ取扱ヲ爲スノ要アルトキハ其ノ都  
度之ヲ定ム

注意

朝鮮銀行ノ如キ補助團體ヲ検査スル場合ニ於テハ監  
督ノ根原タル地位ニ在ル大藏大臣ヲ所管大臣トス

第二章 會計検査院諸法規

○検査事務規程第二十九條ニ依ル委  
託検査成績報告書ニ對スル調査報  
告書ニ關スルノ件

●院長決裁 大正十三年七月七日  
改正検査事務規程第二十九條ニ依ル委託検査成績報告書ニ  
對スル調査報告書ハ別ニ様式ノ限定ナキヲ以テ調査ノ結果  
ヲ記載シタル文書ヲ作成ノ上提出スルコト尙大正十一年度  
以降ノ分ニ對スル調査報告書ハ舊様式ニ依リ提出スルノ要  
ナキモノトス



○震災災ノ爲認可状交付未済ノ場合ニ於ケル處理ニ關スル件

●院長決裁 大正十三年一月十四日  
客年九月震災當時既に判決済無責任ト決定シタルモノニシテ當該出納官吏ニ對シ認可状ノ發送ヲ了セス或ハ認可状發送後不著ト爲レルモノニ對シテハ右該當ノ事實判明セルモノニ限り主任課ニ於テ別紙様式ノ文案ヲ作製シ主管部長ヲ經由シテ院長ニ提出シ決裁ノ上文書掛ニ於テ認可状交付ノ手續ヲ採ルコトニ決定ス  
(別紙)  
大正何年何月何日

○判決報告書中改元ニ基ク會計年度ノ記載方ノ件

●院長決裁 昭和二年四月一日  
大正十五年四月一日ヨリ昭和二年三月三十一日ニ亙ル會計年度ヲ取扱年度トスル場合ニ於テハ判決報告書中會計年度ノ欄ハ「大正十五年度」ト記載スルコトニ決定ス  
追而證明上ノ記載如何ト又管理期ノ改元前後タルトヲ問ハズ總テ會計年度ハ本文決定ノ通り記載スヘキモノトス

○昭和三年勅令第二百七十六號出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件

●略總第十五號 昭和三年十二月十日  
本月十日勅令第二百七十六號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件公布ニ付先例ニ依リ本院内取扱方ハ大正元年協第一號ニ準據シ唯其ノ第三項ノ場合ニハ關係者ヲシテ辨償責任カ本勅令ニ依リ免除セラレタルモノナルヲ知ラシムルコト穩當ナリト認ムルヲ以テ認可状ノ添附書ニ其旨ヲ附記スル様取扱方ヲ一定セムトス而シテ計算ノ検査判決委託廳ニ對シテハ昭和二年三月二十五日普第八

○震災災ノ爲認可状交付未済ノ場合ニ於ケル處理ニ關スル件

●院長決裁 大正十三年一月十四日  
客年九月震災當時既に判決済無責任ト決定シタルモノニシテ當該出納官吏ニ對シ認可状ノ發送ヲ了セス或ハ認可状發送後不著ト爲レルモノニ對シテハ右該當ノ事實判明セルモノニ限り主任課ニ於テ別紙様式ノ文案ヲ作製シ主管部長ヲ經由シテ院長ニ提出シ決裁ノ上文書掛ニ於テ認可状交付ノ手續ヲ採ルコトニ決定ス  
(別紙)  
大正何年何月何日

○判決報告書中改元ニ基ク會計年度ノ記載方ノ件

●院長決裁 昭和二年四月一日  
大正十五年四月一日ヨリ昭和二年三月三十一日ニ亙ル會計年度ヲ取扱年度トスル場合ニ於テハ判決報告書中會計年度ノ欄ハ「大正十五年度」ト記載スルコトニ決定ス  
追而證明上ノ記載如何ト又管理期ノ改元前後タルトヲ問ハズ總テ會計年度ハ本文決定ノ通り記載スヘキモノトス

○昭和三年勅令第二百七十六號出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件

●略總第十五號 昭和三年十二月十日  
本月十日勅令第二百七十六號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件公布ニ付先例ニ依リ本院内取扱方ハ大正元年協第一號ニ準據シ唯其ノ第三項ノ場合ニハ關係者ヲシテ辨償責任カ本勅令ニ依リ免除セラレタルモノナルヲ知ラシムルコト穩當ナリト認ムルヲ以テ認可状ノ添附書ニ其旨ヲ附記スル様取扱方ヲ一定セムトス而シテ計算ノ検査判決委託廳ニ對シテハ昭和二年三月二十五日普第八

號各省大臣ニ對シテハ普第九號ノ趣旨ニ依リ左案ノ通牒又ハ照會ヲ發セムトス  
検査委託廳(昭和三年十二月十三日) 第一號  
今般勅令第二百七十六號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件發布相成候ニ付貴省へ委託ニ係ル計算ノ検査判決ニ關シテハ左記ニ準シ御取扱相成度此段及通牒候也

各省大臣宛 院 長

追テ貴省所管内各検査委託廳ニ對シテハ本文ノ趣可然御傳達相煩度御依頼致候

(大藏大臣ニ對シテハ「追書」委託廳」ノ下ニ(各植民地分トモ)ト括弧書ノコト)

左記

- 一 検査判決ノ結果既往ニ於テ債務ヲ有スルモノニシテ本勅令第二百七十六號ニ依リ今回債務免除トナリタルモノニ對シテハ認可状ヲ交付セス
- 二 將來計算検査上本勅令ノ免除ニ該當スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ判定シ之ヲ關係書類ニ記載シ置クニ止メ直ニ認可状ヲ交付スルモノトス  
但シ本院へノ委託検査成績報告書及認可状ノ添附書類ニ本勅令ニ依リ免除ノ旨ヲ附記スルコト
- 三 會計規則第三百三十四條(舊會計規則第八十八條)ニ依リ本勅令發布前辨償ヲ命セラレ既ニ辨償(一部ナルト全



部ナルトヲ問ハス)ヲ了シタルモ出納官吏免責ノ理由アリトシ本院ノ判決ヲ求メタル事項ハ本勅令ノ免除ニ該當スルモノト雖之ニ對シ判決ヲ爲シ本屬長官ニ通牒スヘキモノトス

但シ其ノ有責任ノ場合ニ於テハ辨償判決ノ金額ハ既納辨償額ヲ限度トス

昭和三年十一月十日以前ヨリ其ノ以後ニ涉リ繼續セル事由ニ因リ債務ヲ負フヘキ場合ニ於テハ其ノ前後ヲ區分シ同日前ノ事由ニ因ルコト明ナルモノヲ除キ其ノ以後ニ屬スルモノニ對シテノ判決スルモノトス

各省大臣(照會案(昭和三年十二月十三日)第二二號)

今般勅令第二百七十六號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件發布相成候ニ就テハ貴省所管内ニ於テ該勅令ニ依リ此際債務ヲ免除セラレタル者ノ官氏名、判決金額、債務免除金額等別紙書式ニ依リ又債務免除ニ該當スルモノナキトキハ其旨御通牒相成度此段及照會候也

年 月 日

院長

追テ定期貸又ハ据置貸ニ編入ノ上大藏省ニ引繼濟ノモノハ其旨御通牒相成度候

(大藏大臣ニ對シテハ左ノ追書)

追テ各省ニ於テ定期貸又ハ据置貸ニ編入ノ上貴省ヘ引繼濟ニ係ルモノニ對シ貴省ニ於テ免除處分ヲ執行シタルモ

ノハ元所屬省別ニ區分シ御通牒相成度候(別紙)

出納官吏債務免除金額取調表

| 年度所屬部局名 | 職名官氏名 | 判決金額 | 判決年月日 | 備考 |
|---------|-------|------|-------|----|
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |
|         |       |      |       |    |

(参照)

勅令第四十一號實施ニ伴フ取扱方一定ノ議

●協第一號 大正元年十一月八日

一出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル勅令ヲ發布セラレタルニ依リ此際會計検査院ハ各個ノ事件ヲ指示シテ辨償未了ノ分ヲ免除スヘキコトヲ通知スヘキヤ否ノ問題ニ關シ本院ハ處分ヲ要求シアルヲ以テ其要求ヲ取消スノ意味ニ於テ通知ヲ要スルモノナリト云フ說アレトモ本院ハ敢テ此際何等通知ヲ爲スノ要ナシ總テ本屬長官ニ一任シ置クヲ至當トス但本屬長官ヲシテ此際免除ノ處分ヲ爲シタルモノニ對シテハ照會ノ上本院ニ通知セシメントス

二 前項債務ヲ免除セラレタルモノニ對シ辨償ヲ完了シタルモノト見做シ之ニ認可狀ヲ交付スヘシトノ論アルモ辨償完了ト債務免除トハ同一ニ見做スヘキモノニアラス唯勅令ノ效力ニ依リ負擔ノ義務ヲ免レタルニ過キササルヲ以テ之ニ對シ認可狀ヲ交付セス

三 本院ニ於テ將來計算書検査上本勅令ノ免除ニ該當スルモノアルトキハ之ニ對シ判決ヲ爲スヘキヤ又ハ直ニ認可狀ヲ交付ス

ヘキヤノ問題ニ關シテハ本院ハ判決報告ニ於テ事實ヲ記載シ置クニ止メ直ニ認可狀ヲ交付スヘキモノトス

四 再審事項ニシテ本勅令ノ免除ニ該當スルモノニ就テハ再審ヲ開始セサルハ勿論既ニ之ヲ開始シタルモノアレハ其進行ヲ停止シ本屬長官ニ向ヒ又ハ本屬長官ヲ經由シテ當該官吏ニ向テ再審取消ノ通牒ヲ發スルモノトス

五 出納官吏本院ノ判決ニ基キ本勅令發布前辨償(一部ナルト全部ナルト)ヲ問ハス)ヲ了シタル件ニ付再審ヲ要求シタルトキハ之ニ對シ判決ヲ爲シ本屬長官ニ通牒スヘキモノトス但有責任ノ場合ニ於テ判決金額ハ既納辨償額ヲ限度トス

六 會計規則第八十八條ニ據リ本勅令發布前辨償ヲ命セラレ既ニ辨償(一部ナルト全部ナルト)ヲ問ハス)ヲ了シタルモ出納官吏免責ノ理由アリトシ本院ノ判決ヲ求メタル事項ニシテ本勅令ノ免除ニ該當スルモノニ就テハ第五項ニ同シ

七 金庫出納後ハ出納官吏ノ一タルヲ以テ本勅令ノ範圍内ニ屬スルコト明ナルモ國債ノ元利仕拂ニ付現金前渡ヲ受ケタル日本銀行ニ就テハ多少ノ疑ナキニアラス日本銀行ハ官吏ニアラサルコト勿論ナルモ其責任ハ出納官吏ニ同シク會計法ニ依リ之ヲ負擔スルモノナルコトハ明ニ院議ノ認ムル所ナリ既ニ會計法ニ依リ責任ヲ負フ以上ハ之ヲ出納官吏ト同一ニ論スルニアラサレハ其結論ニ於テ矛盾ヲ來タスヘシ故ニ日本銀行モ亦本勅令ニ依リ責任ヲ免除セラレ、モノトス

八 七月三十日以前ヨリ其以後ニ涉リ繼續セル事由ニ因リ債務ヲ負フヘキ場合ニ於テハ之ヲ七月三十日前後ニ區分シ其以後ノ分ノミニ就テ債務ヲ負ハシムルコト、スヘキヤ又ハ之ヲ不可分のモノト見做シ其全部ニ就キ責任ヲ負ハシムヘキヤノ問題アリ然レトモ出納官吏ノ責任ハ判決ニ依リテ發生スルニアララス亡失毀損等ノ事實ヲ生シタルトキハ其事實ヲ生スルト同時ニ法律ノ力ニ依リ出納官吏ハ之ヲ負擔ノ責任ニ任スヘキモノナリ故ニ繼續ノ場合ト雖モ明ニ七月三十日以前ニ發生シタル

コトノ明ナルモノハ之ヲ區分シ其以後ニ屬スルモノニ對シテノ判決スルモノトス

九 出納官吏ノ辨償債務ハ既ニ据置貸ニ編入セラレタルモノト雖モ本勅令ノ範圍ニ屬スルモノトス

十 第二、三、六、八項ノ決議ノ旨趣ハ検査委託廳ヘ通知ヲ要ス

一 昭和三年十一月十日勅令第二百七十六號(第七章參看)

一 昭和二年二月七日勅令第十五號

一 大正十三年一月二十六日勅令第十二號

一 大正四年十一月十日勅令第二百七號

一 大正元年十一月五日勅令第四十一號

一出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件(昭和二年三月略總第二號、大正十三年二月略總第四號、大正四年十二月略總第八號、大正元年十一月略總第七號)

○昭和三年勅令第二百七十六號恩赦ニ依リ判決報告書取扱方ノ件

●院長決裁 昭和三年十二月二十六日  
一 昭和三年十一月勅令第二百七十六號ヲ適用シタル判決報告書ニハ本勅令ニ依リタルモノナル旨ヲ朱書スヘシ  
二 昭和三年十一月勅令第二百七十六號ヲ適用シタル場合ニ認可狀ニ添附スヘキ通知書ハ別紙ノ様式ニ依リ文書掛ニ於テ調製發遣スヘシ但シ特ニ他ノ文案ヲ必要トスルモノハ主任課ニ於テ之ヲ調製シ判決報告書ニ添附スヘシ



(別紙)

何廳職官氏名ハ其ノ證明ニ係ル何年度 被<sub>レ</sub>寄取金...:圓  
其他  
(辨償未済額)ニ對シ辨償ノ責ヲ免レサルモノナルモ昭和  
三年勅令第二百七十六號ニ基キ別紙認可狀交付致候條御  
了知相成度候也

各省大臣(本屬長官)宛

院長

○部會議決事項

明治三年第八號 改正 三十五年第四號

●院內達第七號 大正十一年五月十日

- 部會議決事項ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 檢定及確定報告書、判決報告書、決定報告書ニシテ其ノ  
掲載事項恆例ニ屬スルモノ
- 二 部長ノ名義ヲ以テ發送スル文書ニシテ事ノ重要ナルモノ
- 三 恆例ニ屬スル再審開否ノ理由ヲ具シタル報告書
- 四 會計検査院法第十七條ニ依ル各省ノ通知書
- 五 其ノ他會議ノ議決ヲ要スル事項ニシテ恆例ニ屬スルモノ  
ノ及部長ニ於テ部會議ノ議決ヲ要スト認メタルモノ  
(參照) 本改正ハ大正十一年五月十日ヨリ施行

○議事細則

明治三年第八號 改正 明治三十五年第一號

●院內達第八號 大正十一年五月十日

第一章 總會議

○會計検査院勅任検査官及書記定員ノ件

●勅令第一百十三號 明治四十三年三月二十八日

改正 明治四十四年第二號、大正二年第二三號、三年第二四六號、八年第九〇號、  
一〇年第三九六號、一二年第九八號、一四年第九二號、昭和二年第三七號、四年  
第一九號

會計検査院勅任検査官及書記ノ定員左ノ通定ム

- 一 勅任検査官 三人
- 二 書記 專任二百十八人(昭和二年三月第三七號、四年三月第一九號ヲ以テ改正)

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○會計検査官任用資格ノ件

●勅令第八十號 明治二十二年六月六日

改正 明治三〇年第二一號

會計検査院法第六條ニ依リ會計検査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

- 第一 年齢滿三十歳以上ノ者
- 第二 五箇年以上高等行政官若クハ判事檢事(検査官補)ノ職ニ在ル者及在リタル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

第二章 會計検査院諸法規

- 第一條 議事ハ議案(第一號)ヲ各議員ニ配付シタル日ノ翌日ヨリ少クトモ三日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急ヲ要スル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 議長ハ議場ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理ス
- 第三條 議事ヲ開クトキハ議長開會ヲ宣シ議案ヲ朗讀セシム但シ便宜之カ朗讀ヲ省略スルコトヲ得
- 第四條 議事ハ第一讀會乃至第三讀會ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ必要ニ應シ讀會ヲ省略スルコトヲ得
- 第一讀會ニ於テハ議案ノ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ
- 第二讀會ニ於テハ議案ノ内容ニ付審査議決スヘシ
- 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ニ付議決スヘシ
- 第五條 議長ハ議題ノ順序ヲ變更シ又ハ數議題ヲ連ネ若ハ一議題ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員ニ於テ異議ヲ提出スルモノアルトキハ其ノ贊成者アルヲ待テ討論ヲ用ヒシテ之ヲ採決スヘシ
- 第六條 議員發言セムト欲スルトキハ起立シテ議長ト呼ビ其ノ許可ヲ求ムヘシ
- 議長ハ議員ニ對シ其ノ番號ヲ呼ビ發言セシムヘシ
- 第七條 議員發言中ハ他ノ議員發言スルコトヲ得ス
- 議事ハ各自靜肅ヲ旨トシ私語ヲ交フルコトヲ禁ス
- 第八條 議長ハ議員ノ發言中ト雖議事ヲ中止スルコトヲ得
- 議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得
- 第九條 議長ハ議案ノ種類ニ依リ各議員ノ意見ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ末席ノ議員ヨリ遞次之ヲ陳述セ

○會計検査官退官ニ關スル法律

●法律第九十一號 明治二十九年五月二日

- 第一條 會計検査官身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ退官ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 退官ハ會計検査官會議ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス
- 第三條 會計検査官會議ハ會計検査院長ヲ以テ議長トス院長ニ對スル退官ノ申立アルトキハ會計検査院部長中上席者ヲ以テ議長トス
- 議長事故アルトキハ會計検査院部長中上席者之ヲ代理ス
- 第四條 會計検査官會議ハ現員三分ノ二以上出席スルニ非サルハ決議ヲ爲スコトヲ得ス
- 會計検査官會議ノ決議ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第五條 會計検査院部長及検査官ニ對スル退官申立ハ會計検査院長之ヲ爲シ院長ニ對シテハ部長會議ノ上之ヲ爲ス
- 第六條 會計検査官第一條ニ依リ退官ヲ命セラレタルトキハ(官吏恩給法)ニ於テ同法第二條ニ掲クル事項ニ該リタル者ト同視ス



○會計検査官懲戒法

●法律第二十一號 明治三十三年三月一日

第一章 總則

第一條 會計検査官ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條 懲戒ハ懲戒裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ行フ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 譴責

二 減俸

三 免官

第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ス

第五條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ判決ノ日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

第六條 刑事裁判手續中ハ同一事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判ノ言渡前同一事件ニ付被告ニ對シ刑事訴訟ノ始リタルトキハ其ノ事件ノ判決確定ニ至ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第七條 懲戒裁判所ニ長官一人裁判官六人豫備裁判官六人

ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ノ中ヨリ裁判官ノ中三人ハ大審院判事

三人ハ會計検査院長ヲ加ヘ會計検査官ノ中ヨリ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

豫備裁判官ハ前項ノ例ニ準シ之ニ補ス

第八條 長官裁判官及豫備裁判官ノ任期ハ三年トス但シ補

闕ノ爲補職セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第九條 懲戒裁判所ハ長官及裁判官ヲ併セ七人ノ列席合議

ヲ以テ裁判ス

第十條 懲戒裁判所ニ於テハ長官ヲ以テ裁判長トシ長官事

故アルトキハ上席裁判官ヲ以テ裁判長トス

裁判官事故アルトキハ其ノ同一官廳ヨリ出テタル豫備裁

判官ノ中ヨリ長官其ノ代理ヲ命ス

第十一條 懲戒裁判所ノ裁判ノ評議ニ關シテハ裁判所構成

法ノ規定ヲ準用ス

第十二條 懲戒裁判所ニ檢察官一人及豫備檢察官一人ヲ置

ク

檢察官及豫備檢察官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

第十三條 懲戒裁判所ニ書記三人ヲ置ク

書記ハ判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

第三章 裁判手續

第十四條 會計検査院長ハ會計検査院部長及検査官ニシテ

懲戒ニ該ルヘキ所爲アリト認ムルトキハ懲戒裁判所檢察

官

ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ノ中ヨリ裁判官ノ中三人ハ大審院判事

三人ハ會計検査院長ヲ加ヘ會計検査官ノ中ヨリ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

豫備裁判官ハ前項ノ例ニ準シ之ニ補ス

第八條 長官裁判官及豫備裁判官ノ任期ハ三年トス但シ補

闕ノ爲補職セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第九條 懲戒裁判所ハ長官及裁判官ヲ併セ七人ノ列席合議

ヲ以テ裁判ス

第十條 懲戒裁判所ニ於テハ長官ヲ以テ裁判長トシ長官事

故アルトキハ上席裁判官ヲ以テ裁判長トス

裁判官事故アルトキハ其ノ同一官廳ヨリ出テタル豫備裁

判官ノ中ヨリ長官其ノ代理ヲ命ス

第十一條 懲戒裁判所ノ裁判ノ評議ニ關シテハ裁判所構成

法ノ規定ヲ準用ス

第十二條 懲戒裁判所ニ檢察官一人及豫備檢察官一人ヲ置

ク

檢察官及豫備檢察官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理

大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

○大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件

●勅令第三百五號 大正十二年六月十三日

左ノ名稱ノ費途ニハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ

費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

- 一 俸給
- 二 機密費
- 三 交際費
- 四 宴會費
- 五 接待費
- 六 渡切費
- 七 新營費
- 八 補助費

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



○會計規則及各特別會計規則ノ規定  
ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿  
ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

●大藏省令第二十號 大正十一年三月二十九日

改正 大正一三年第九號、一四年第一〇號、一五年第三八號、昭和元年第六號、二年第  
四號、第二〇號、第三〇號、四年第三號、第五號

- 一 支拂豫算書 別表第一號書式ニ依ル
- 一 支拂豫算更定計算書 別表第二號書式ニ依ル
- 一 年度開始前支出計算書 別表第三號書式ニ依ル
- 一 徵收報告書 別表第四號書式ニ依ル
- 一 徵收總報告書 別表第五號書式ニ依ル
- 一 徵收簿 別表第六號書式ニ依ル
- 一 歲入簿 別表第七號書式ニ依ル
- 一 支出濟額報告書 別表第八號書式ニ依ル

- 一 支出總報告書 別表第九號書式ニ依ル
- 一 繰越計算書 別表第十號書式ニ依ル
- 一 支出簿 別表第十一號書式ニ依ル
- 一 歲出簿 別表第十二號書式ニ依ル
- 一 現金領收證書 別表第十三號書式ニ依ル
- 一 現金出納簿 別表第十四號書式ニ依ル
- 一 國庫日記簿 別表第十五號書式ニ依ル
- 一 國庫原簿 別表第十六號書式ニ依ル
- 一 歲入主計簿 別表第十七號書式ニ依ル
- 一 歲出主計簿 別表第十八號書式ニ依ル
- 一 作業會計、海軍工廠資金會計、朝鮮鐵道用品資金會計  
及臺灣官設鐵道用品資金會計日記簿 別表第十九號書式ニ依ル
- 一 造幣局會計日記簿 別表第二十號書式ニ依ル
- 一 帝國鐵道會計日記簿 別表第二十一號書式ニ依ル
- 一 健康保險會計日記簿 別表第二十一號ノ二書式ニ依ル  
(昭和元年二月第  
六號ヲ以テ追加)
- 一 簡易生命保險會計日記簿 別表第二十二號書式ニ依ル
- 一 郵便年金會計日記簿 別表第二十二號ノ二書式ニ依ル  
(大正一五年九月第  
三號ヲ以テ追加)
- 一 大藏省預金部會計日記簿 別表第二十二號ノ三書式ニ依ル  
(大正一五年九月第  
三號ヲ以テ改正)
- 一 朝鮮簡易生命保險會計日記簿 別表第二十二號ノ四書式ニ依ル  
(昭和四年五月第  
五號ヲ以テ追加)

- 一 米穀需給調節會計日記簿 別表第二十三號書式ニ依ル
  - 一 製鐵所會計日記簿 別表第二十三號ノ二書式ニ依ル  
(昭和二年七月第  
二號ヲ以テ追加)
  - 一 特別會計原簿 別表第二十四號書式ニ依ル
  - 一 特別會計補助簿 別表第二十五號書式ニ依ル
  - 一 特別會計支拂元受高差引簿 別表第二十六號書式ニ依ル
  - 一 受拂勘定表 別表第二十七號書式ニ依ル
  - 一 帝國鐵道會計貸借對照表 別表第二十八號書式ニ依ル
  - 一 帝國鐵道會計損益計算表 別表第二十九號書式ニ依ル
  - 一 帝國鐵道會計資本增減表 別表第三十號書式ニ依ル
  - 一 帝國鐵道會計固定財產價格增減表 別表第三十一號書式ニ依ル
  - 一 固定資本價格增減表 別表第三十二號書式ニ依ル
  - 一 健康保險、簡易生命保險、郵便年金又ハ朝鮮簡易生命  
保險會計積立金明細目錄 別表第三十三號書式ニ依ル  
(大正一五年九月第三八號、昭和元年二  
月第六號、四年五月第五號ヲ以テ改正)
- 附則  
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス  
明治二十三年大藏省令第九號(作業及鐵道會計規則ニ要  
スル諸報告書諸表諸帳簿書式)  
明治二十六年大藏省令第三十二號(會計規則ニ據ル諸計  
算書任拂命令領收證及諸帳簿様式)  
明治三十年大藏省令第五號(臺灣總督府特別會計規則所















第二十三號書式

「某年度米穀需給調節會計日記簿」

| 原簿數 | 原簿 | 科目       | 日      | 何年何月何日 |   |
|-----|----|----------|--------|--------|---|
|     |    |          |        | 借      | 貸 |
|     | 國庫 | 米穀需給調節收入 |        | 0      | 0 |
|     | 損益 | 借入金      |        | 0      | 0 |
|     |    |          | 何年何月何日 |        |   |
|     | 米穀 | 證券發行未済   |        | 0      | 0 |
|     |    | 證券發行高    |        | 0      | 0 |
|     |    |          | 何年何月何日 |        |   |
|     | 米  | 土地建物     |        | 0      | 0 |
|     |    | 農具       |        | 0      | 0 |
|     |    | 機械       |        | 0      | 0 |
|     |    | 工物       |        | 0      | 0 |
|     |    | 米穀需給調節費  |        | 0      | 0 |
|     |    | 支        |        | 0      | 0 |
|     |    | 出        |        | 0      | 0 |
|     |    | 未済       |        | 0      | 0 |
|     |    |          |        | 0      | 0 |
|     |    |          |        | 0      | 0 |

| 原簿數 | 原簿      | 科目       | 日      | 何年何月何日 |   |
|-----|---------|----------|--------|--------|---|
|     |         |          |        | 借      | 貸 |
|     | 米穀需給調節費 | 國庫       |        | 0      | 0 |
|     | 證券發行高   | 損益       |        | 0      | 0 |
|     | 借入金     |          |        | 0      | 0 |
|     |         |          | 何年何月何日 |        |   |
|     | 中       | 如官吏      |        | 0      | 0 |
|     | 損       | 米穀需給調節收入 |        | 0      | 0 |
|     |         |          | 何年何月何日 |        |   |
|     | 前       | 金        |        | 0      | 0 |
|     | 出       | 納官吏      |        | 0      | 0 |
|     | 米       | 穀        |        | 0      | 0 |
|     |         |          |        | 0      | 0 |
|     |         |          |        | 0      | 0 |

○會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件

●大藏省令第四十三號 大正十一年五月三十日  
 第一條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」、「二」、「三」、「十」、「廿」、「卅」ノ數字ハ「壹」、「貳」、「參」、「拾」、「貳拾」、「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス  
 前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治二十三年大藏省令第二十一號(計算出納ニ關スル諸證書ニ記載スル金員ノ用字ヲ定ムルノ件)ハ之ヲ廢止ス

○歳入年度等誤謬ノ場合訂正手續

●大藏省令第三十八號 大正十一年四月五日  
 第一條 歳入徴收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、拂込通知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歳入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ其ノ歳入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキ既ニ日本銀行ニ振替拂込ヲ了シタル後ナルトキハ歳入徴收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 歳入徴收官出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正済ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徴收簿ヲ訂正シ其ノ事由ヲ領收済ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ

第四條 甲廳歳入徴收官誤テ乙廳所管歳入金ヲ徴收シタル場合ニ於テハ甲乙兩廳歳入徴收官連署ノ上關係出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ對シ之カ更正ヲ請求スヘシ



前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 歳入徴收官當該年度出納閉鎖後歳入年度ノ誤謬ヲ發見正ヲ了セサル場合又ハ出納閉鎖後歳入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘据置整理シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歳入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス  
明治二十四年大藏省令第十一號(金庫ニテ現金領收後納額告知書現金拂込書及納付書記載年度ノ誤謬發見ノトキ訂正手續ノ件)ハ之ヲ廢止ス

○入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

●勅令第三百四十號 明治四十三年九月七日

改正 大正九年第五八一號

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正九年十二月二十八日勅令第五百八十一號)

○借入金整理ニ關スル法律

●法律第二十七號 昭和四年三月二十九日

政府ハ本法施行ノ際一般會計カ他ノ會計ニ對シテ有スル貸付金六千四百十萬九百圓ノ債權ヲ大藏省預金部ニ讓渡シ之ヲ以テ一般會計ノ大藏省預金部ヨリノ借入金中同一額ノ債務ノ償還ニ代フルコトヲ得

附則

本法ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七章 雜則

第三十四條 本令ニ於テ作業所トハ印刷局、海軍火藥廠、海軍燃料廠、陸軍造兵廠及千住製絨所ヲ謂フ(大正一五年一月第二號ヲ以テ改正)

第三十五條 本令ニ於テ作業事務長トハ印刷局長、海軍火藥廠長、海軍燃料廠長、陸軍造兵廠長官及千住製絨所長ヲ謂フ(大正一五年二月第一號ヲ以テ改正)

第三十六條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款 外務省所管

○對支文化事業特別會計法

●法律第三十六號 大正十二年三月三十一日

改正 大正一五年第二九號

第一條 對支文化事業助長ノ爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 左ニ掲クル證券ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

一 明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券

二 山東懸案解決ニ關スル條約第六條及第二十五條並山東懸案細目協定第十九條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中製鹽業者ニ交付スルモノヲ除キタルモノ

三 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中賠償金特別會計ニ歸屬セシメラルヘキモノヲ除キタルモノ

第三條 山東懸案解決ニ關スル條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金中賠償金特別會計ニ繰入レラルヘキモノヲ除キタル殘額ハ之ヲ本會計ニ繰入ルヘ

○特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件

●勅令第一百十八號 明治三十年四月二十八日  
特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則(第十八條)ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ



シ  
第四條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル諸收入ヲ以テ其ノ歳入トス

- 一 所屬證券ノ償還元利金
- 二 所屬資金ノ運用利殖金
- 三 寄附金
- 四 附屬雜收入

第五條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル事業ニ關スル諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

- 一 支那國ニ於テ行フヘキ教育、學藝、衛生、救恤其ノ他文化ノ助長ニ關スル事業
- 二 帝國ニ在留スル支那國人民ニ對シテ行フヘキ前號ニ掲クル事業ト同種ノ事業
- 三 帝國ニ於テ行フヘキ支那國ニ關スル學術研究ノ事業

第六條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第七條 本會計ノ歳出額ハ寄附金ニ依ルモノヲ除クノ外毎年度三百萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 本會計ノ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

第九條 本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

ノ歳入トシ保險給付費、保健施設費、借入金ノ償還元及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 前條ノ一般會計ヨリ繰入ルル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル但シ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ(昭和四年三月第一號ヲ以テ改正)

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ保險料ヲ以テ保險給付費及保健施設費ヲ支辨スル能ハサル場合ニ借入ルルモノヲ除クノ外最高五百萬圓トス

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金又ハ繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第十一條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年度一般會計ニ於テ明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券ノ元利償還元收入トシテ受入レタル金額ニ相當スルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二條第二號及第三號ニ規定スル國庫證券ニシテ本法施行前支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

### 第三款 內務省所管

#### ○健康保險特別會計法

法律第二十六號 大正十五年三月二十九日

改正 昭和四年第一號

第一條 健康保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、一般會計ヨリ繰入ルル金額、積立金ヨリ生スル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第九條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### ○健康保險特別會計規則

勅令第四號 昭和元年十二月二十九日

改正 昭和四年第三號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目録ヲ添附スベシ

第二條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣社會局長官ニ命ジテ之ヲ施行セシム但シ他ノ官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額及一時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ



所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ仍不足アルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ對シ一時借入金ニ代ヘ國庫餘裕金ノ繰替使用ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第五條 保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ保險料ヲ負擔スベキ義務ノ發生シタル日ノ屬スル年度ニ依ル

第六條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラザルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出トス

第七條 (昭和四年四月第三) (五號ヲ以テ削除)

第八條 健康保險特別會計法第三條第一項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ付テハ健康保險法施行令第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第九條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十條 社會局長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

### 第四款 大藏省所管

#### ○造幣局特別會計法

●法律第九號 大正四年六月二十一日

改正 昭和四年第二四號

第一條 造幣局ノ事業ヲ經營スル爲固定資本、据置運轉資本及資金ヲ置キ作業上ノ收入、附屬雜收入及資金ニ屬スル收入ヲ以テ歳入ト爲シ作業ノ費用及資金ニ屬スル支出ヲ以テ歳出ト爲シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 造幣局ニ於テ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地、建物、築造、機械、重要ナル器具及標本ヲ以テ固定資本トシ從來ノ据置運轉資本ヲ以テ据置運轉資本トス

資金ハ大正四年度末現在ノ貨幣整理資金特別會計所屬ノ資金ヲ以テ之ニ充テ舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換及處分ニ關スル用途ニ使用ス

貨幣製造ノ準備トシテ必要ナル材料地金ハ資金ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得 (昭和四年三月第一號ヲ以テ追加)

第二條ノ二 製造濟ノ補助貨ニシテ年度内ニ發行ニ至ラザルモノハ資金ニ受入レ之ヲ保有スルコトヲ得 (昭和四年三月第二四號ヲ以テ追加)

第三條 固定資本ノ維持、修理及補充ハ作業上ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 本會計ニ於ケル作業上ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入

第十二條 社會局長官ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條 毎年度ノ歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額及翌年度繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ之ヲ積立金ニ組入ルベシ

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條 社會局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ健康保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條 社會局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スベシ

第十七條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ

第十八條 社會局ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ

第十九條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

#### 附則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ許サス

第五條 資金ニ屬スル收入支出ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 作業上益金ヲ生シタルトキハ之ヲ資金ニ編入シ損失ヲ生シタルトキハ之ヲ資金ヨリ補填スヘシ (昭和四年三月第二四號ヲ以テ改正)

第七條 資金ノ收入支出ノ決算上過剩ヲ生シタルトキハ之ヲ該資金ニ編入スヘシ

第八條 固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第九條 政府ハ毎年本特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 附則

本法ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス

附則(昭和四年三月二十九日法律第二十四號)

本法ハ昭和五年度ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年法律第一號ニ依リ清國事件費支辨ノ爲繰替使用シタル造幣局資金二百二十八萬七百九十七圓五十七錢五厘及大正五年法律第四號ニ依リ大正三年臨時事件費支辨ノ爲繰替使用シタル造幣局資金三百五十萬圓ニ付テハ之ニ相當スル金額ヲ造幣局資金ヨリ減額シテ整理スルコトヲ得



●勅令第七十五號 大正五年三月三十一日  
改正 大正二年第三號、五年第二六號  
 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業上ノ歳入トス

○造幣局特別會計規則

- 第一 作業上ノ收入
- 第二 附屬雜收入
  - 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費
  - 第二 事務所費
  - 第三 職工人夫ニ給スル諸費
  - 第四 作業用器具機械及標本ノ維持修理及補充費
  - 第五 材料素品購入代
  - 第六 動力費
  - 第七 作業場用備品消耗品費
  - 第八 建物及築造ノ維持修理及補充費
  - 第九 (削除)
- 第三條 左ノ諸收入ヲ以テ資金ニ屬スル歳入トス
  - 第一 地金賣拂代
  - 第二 附屬雜收入
  - 第四條 左ノ諸費ヲ以テ資金ニ屬スル歳出トス
    - 第一 舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換金並舊貨幣ノ交換ニ關スル諸費(大正五年七月第二、六四號ヲ以テ改正)
    - 第二 舊貨幣及流通不便貨幣ノ處分ニ關スル諸費
  - 第五條 造幣局ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度作業上ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ作業上ノ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第六條 所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ補助貨鑄造ノ材

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス  
 事業公債及鐵道公債特別會計法(明治三十二年二月八日法律第十三號)、朝鮮事業公債金特別會計法(明治四十四年三月二十三日法律第十九號)ハ之ヲ廢止ス  
 本法施行ノ際前項ノ各特別會計ニ屬スル公債金ハ之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

○賠償金特別會計法

●法律第二十五號 大正九年八月三日  
改正 大正二年第三八號、昭和四年第三號  
 第一條 獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル賠償金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ  
 第二條 本會計ノ資金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得  
 第三條 本會計ハ賠償金及其ノ利子、本會計所屬物件ノ賣拂代金及貸付料、運用利殖金並附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ法令ノ定ムル所ニ依リ支出スル交付金、第三條ノ二ノ規定ニ依ル組入金、事務取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス(昭和四年三月第二、三號ヲ以テ改正)  
 第三條ノ二 本會計ノ資金ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ國際聯盟、移殖民及航空施設ニ關スル經費ニ使用スルコトヲ得(昭和四年三月第二、三號ヲ以テ追加)

第三章 會計法及會計規則

- 前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ(昭和四年三月第二、三號ヲ以テ追加)
- 第四條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第五條 本會計ノ資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ
- 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得
- 第六條 獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル有價證券其ノ他ノ物件ハ本會計ノ所屬トス
- 本會計ノ收入支出及本會計所屬物件ノ保管出納ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券ハ本會計ニ歸屬セシメ同條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金ハ本會計ニ繰入ルヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬セシムル國庫證券ノ額面金額及本會計ニ繰入ルル補償金ノ額ハ通シテ獨逸國トノ平和條約附屬議定書第二號ノ規定ニ依リ獨逸國ノ貸方ニ記入スヘキ金額ヲ超ユルコトヲ得ス



附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十二年四月二日法律第三十八號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタル國庫證券ハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

○賠償金特別會計規則

●勅令第二百五十四號 大正九年八月十三日

第一條 本會計ノ收入支出及本會計所屬物件ノ保管出納ハ會計規則、物中會計規則、明治二十六年勅令第七十號及官有財產管理規則ニ依ル

第二條 本會計所屬ノ物件ヲ賣拂又ハ貸付スル場合ニ於テ所管大臣公告シテ競争入札ニ付スルヲ不利ト認ムルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國有財產整理資金特別會計法

●法律第六號 大正十一年三月二十八日

第一條 國有財產整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歳入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理ニ關シ必要ナル事務費、營繕費其ノ他ノ諸費ニ之ヲ使用ス

○國有財產整理資金特別會計法ノ特例ニ關スル法律

●法律第十五號 昭和二年三月三十日

改正 昭和四年第三七號

復興局廳舎新營費又ハ帝都復興事業費ヲ以テ建築シ、購入シ又ハ埋立テタル國有財產ニシテ不用ニ歸シタルモノノ賣拂代金ハ帝都復興ニ要スル經費ニ充用スル爲國有財產整理資金特別會計法第二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一般ノ歳入ニ組入ルルコトヲ得(昭和四年四月第三七號ヲ以テ改正)

前項ノ規定ニ依リ一般ノ歳入ニ組入ルルコトヲ得ル金額ハ二千三十萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ(昭和四年四月第三七號ヲ以テ改正)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 國有財產整理資金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第五條 國有財產整理資金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第六條 一般ノ歳計上必要アル場合ニ於テハ豫算ノ定ムル所ニ依リ國有財產整理資金ヲ第三條ニ規定スル費途以外ノ營繕費ニ使用スルコトヲ得

第七條 政府ハ毎年國有財產整理資金ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 國有財產整理資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

第九條 國有財產整理資金ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス



○教育改善及農村振興基金特別會計  
法

●法律第十四號 大正十四年三月三十日

改正 大正一五年第二七號

- 第一條 教育改善及農村振興基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 造幣局資金ノ内一億四千四百萬圓ハ之ヲ本基金ニ繰入ルヘシ
- 第三條 本基金ハ教育ノ改善及農村ノ振興ニ必要ナル費途ニ之ヲ使用ス
- 第四條 第二條ノ規定ニ依リ繰入レタル金額ハ本基金ノ元資金トシ之ヲ費消スルコトヲ得ス
- 第五條 本基金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利殖金ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ
- 第六條 本基金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ
- 第七條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第八條 本基金ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附則  
本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス



第五款 陸軍省所管

○陸軍作業會計法

●法律第十八號 明治二十三年三月十八日

改正 明治三十五年第四號、四五年第一〇號

第一條 【東京砲兵工廠大阪砲兵工廠】及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 【東京砲兵工廠大阪砲兵工廠】ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物其他工作物船舶機械及重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

第三條 【東京及大阪砲兵工廠】ハ供給諸旅費廳費職工人工夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物其他工作物船舶機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス

千住製絨所ハ供給諸旅費廳費生産品販賣ノ諸費職工人工夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物其他工作物機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス

失金ヲ作業ノ歳出トス

第四條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ各特別會計合併ニ關スル法律

●法律第七號 大正十二年三月二十七日

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ各特別會計ハ之ヲ合併シテ

スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條 大藏大臣ハ前條ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十五條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ毎年度内ニ小切手ヲ振出スニ至ラザリシ殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ但シ支出殘額ニシテ爾後支拂ヲ要セサルモノハ寄附者ノ同意ヲ得テ之ヲ資金ト爲スコトヲ得

第二十六條 第二十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ繰越シタル支出未済ノ金額ニシテ會計法第三十二條ノ規定ニ依リ支拂義務消滅シタルモノ及會計規則第五十四條ノ規定ニ依リ支拂入ニ組入ルヘキモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第二十七條 毎年度ノ歳入中支出濟額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第五章 雜則

第二十八條 (削除)

第二十九條 帝國大學ハ歳入支簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ

第三十條 文部省ハ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ

第三十一條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第三十二條 帝國大學ハ歳出支簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出支簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第三十三條 文部省ハ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ニ付歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第三十四條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學特別會計規則(明治四十三年三月二十五日勅令第五十三號)ハ之ヲ廢止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○學校及圖書館特別會計法

●法律第二十三號 明治四十年三月二十七日

改正 昭和四年第四號

第一條 文部省直轄諸學校及帝國圖書館ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テシメ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歳



出ニ充テシム

第二條 前條ノ政府支出金ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

第三條 學校及圖書館資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動産及不動産並歳入殘餘ヨリ成ル但シ第八條施行豫算ノ歳入殘餘ニシテ資金ニ編入セラレタルモノハ學校及圖書館毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シタル資金ハ用途指定者ノ同意ヲ得テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第五條 學校及圖書館ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタルトキハ當該學校及圖書館ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第六條 教員事務員ノ俸給、諸給、旅費、器具機械圖書標本費、授業費、試験費、生徒ニ關スル諸費、事務所費、修繕費、雜支出其ノ他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館特別會計ノ歳出トス

第七條 政府ハ毎年學校及圖書館特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 文部大臣ハ歳入歳出豫算決定ノ後學校及圖書館毎ニ歳入歳出ノ施行豫算ヲ調製シ學校長及圖書館長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシテ歳

第一章 資金

第一條 資金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ之ヲ特別資金トシ其ノ他ノモノハ之ヲ維持資金トス

特別資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其ノ殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

維持資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ學校圖書館一般ノ經費ニ充ツルモノトス但シ學校及圖書館特別會計法第三條但書其ノ他特別ノ規定ニ依リ整理スル資金ヨリ生スル收入ハ各當該學校及圖書館ノ經費ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ニ屬スル現金ハ總テ大藏省預金部ニ寄託スヘシ

第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産、公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘムトスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス

第五條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關スル取扱方ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二章 豫算決算

第七條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度

第三章 會計法及會計規則

入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得(昭和四年三月號四號ヲ以テ追加)

第九條 學校及圖書館ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械標本及實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十一條 獎學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ其ノ學校ニ交付シ學校長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第十二條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

第十三條 學校及圖書館特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

官立學校及圖書館會計法(明治二十三年三月二十八日法律第二十六號)ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際各學校及圖書館ニ於テ從來資金トシテ所有スル動産不動産ハ總テ學校及圖書館資金ニ之ヲ編入スヘシ但シ收入ノ目的ヲ以テ所有シタル資金ハ第三條但書ニ依ル

○學校及圖書館特別會計規則

勅令第六十號 明治四十年三月二十七日

改正 大正二年第四三號、二年第一六六號、昭和四年第三四號

九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添附スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章 收入支出

第十條 所管大臣ハ文部大臣官房會計課長ヲシテ印刷及用紙ニ關スル歳入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得(昭和四年四月第三(四號)ヲ以テ改正)

第十一條 學校及圖書館ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高ト爲シ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十二條 (削除)

第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

第十五條 學校及圖書館ニ於テ在外國人、藝術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集又ハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル者ヲ受取人トシ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四章 年度繰越

第十六條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ翌年度四月三十日迄ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出濟



額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十七條 工事、製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニ關スル經費ニシテ毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生セス小切手ヲ振出スニ至ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十八條 所管大臣ハ前條ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第十九條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ毎年度内ニ小切手ヲ振出スニ至ラザリシ殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ但シ支出殘額ニシテ爾後支拂ヲ要セサルモノハ寄附者ノ同意ヲ得テ之ヲ資金ト爲スコトヲ得

第二十一條 第十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ繰越シタル支未済ノ金額ニシテ會計法第三十二條ノ規定ニ依リ支拂義務消滅シタルモノ及會計規則第五十四條ノ規定ニ依リ歳入ニ組入ルヘキモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第二十二條 毎年度ノ歳入中支出濟額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第五章 雜則

第二十三條 (削除)

第二十四條 (削除)

第二十五條 文部省ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟

スル證券ノ額ト通シテ最高ニ億七千萬圓トス(昭和四年三月第一號)

第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ除クノ外一年内ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名證券トス

第四條 日本銀行ハ前條ノ證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スヘシ

第五條 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利息並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ

第六條 本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利息子其ノ他諸費ヲ以テ歳出トス

第七條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ之ヲ繰入ルヘシ

第九條 政府ハ毎年度本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入

額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ  
第二十六條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ  
第二十六條ノ二 文部省ハ歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ  
第二十七條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校及圖書館會計監理官トシ學校及圖書館ノ會計ヲ監督セシムヘシ  
第二十八條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

第八款 農林省所管

米穀需給調節特別會計法

法律第三十七號 大正十年四月四日

改正 大正一四年第三號、昭和四年第三號

第一條 米穀ノ數量又ハ市價ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト区分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入金ノ額ハ第三條ノ規定ニ依リ發行

歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

米穀需給調節特別會計規則

勅令第二百二十四號 大正十年五月二十四日

改正 大正一二年第四〇號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表並其ノ年三月三十一日ニ於ケル米穀在高明細表ヲ添附スヘシ

第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 毎年度ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得



第四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス

第五條 毎年度内ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入済ト爲ラサルモノハ收入未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第六條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出済額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 (削除)

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 本會計ノ保有スル米穀ノ價格ハ毎年度三月三十一日ニ於テ市價ニ準據シ之ヲ改定スヘシ

第十條 貸借對照表、損益計算表及米穀在高明細表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 所管大臣ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ本會計ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十三條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スヘシ

第十四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第十五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルコトヲ得

第十六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

第十七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第十九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第二十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス  
一般會計ハ當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル金額ヲ本會計ニ繰入ルコトヲ得

出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ適用ス  
大正七年勅令第九十二號(外國米ノ輸入等ニ關スル件)ハ大正十年五月三十一日限之ヲ廢止ス

○家畜再保險特別會計法

●法律第十一號 昭和四年三月二十八日

第一條 家畜保險法ニ依ル家畜再保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ再保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ再保險金、再保險料ノ還付金、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ  
本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

○家畜再保險特別會計規則

●勅令第三十三號 昭和四年四月一日

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第二條 豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表並ニ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目録ヲ添附スベシ

第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ歳入歳入額及家畜再保險特別會計法第六條ニ規定スル一時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ家畜再保險特別會計法第六條ニ規定スル一時借入金ニ代ヘ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得

第五條 前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第六條 再保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ再保險料ヲ負擔スベキ義務ノ發生シタル日ノ屬スル年度ニ依ル

第七條 毎年度内ニ收入ヲ爲スベキ權利ヲ得テ毎年度出納ノ完結迄ニ收入済ト爲ラサルモノハ收入未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ル



ベシ

第六條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スベキ義務ヲ生ジ毎年度出納ノ完結迄ニ支出済ト爲ラザル歳出ニシテ時効完成ニ至ラザルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越スベシ但シ支出済額ト合シテ豫算額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額、翌年度繰越額及未經過再保険料ニ相當スル金額ヲ控除シ殘餘アルトキハ之ヲ積立金ニ組入レ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

前項ニ規定スル未經過再保険料ノ計算ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第九條 農林省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ家畜再保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十條 貸借對照表及損益計算表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十一條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ

第十二條 農林省ハ歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十三條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

### 第九款 商工省所管

#### ○製鐵所特別會計法

●法律第四十六號 大正十五年三月三十一日

第一條 製鐵所ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ固定資本及据置運轉資本並將來ノ製鐵所益金及本會計ノ負擔ニ屬スル公債又ハ借入金ヲ以テ資本ト爲シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充テ特別會計ヲ設置ス

第二條 製鐵所ニ於テ固定財産ノ擴張及改良ニ要スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得但シ公債又ハ借入金ノ額ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

産ノ減價償却金ハ第二十条ノ規定ニ依リ當該年度ニ於テ減少スル價格ニ相當スル金額トス但シ固定財産補充ノ爲工事ヲ施シタル場合ニ於テ當該固定財産ノ價格ノ増加額カ工事ノ爲要シタル經費ニ達セザルトキハ其ノ差額ヲ減價償却金ニ加算スヘシ

第二十七條 資本勘定ノ利益及損失ニ屬スルモノ左ノ如シ

- 利益ニ屬スルモノ
  - 一 歳入收入済(他勘定ヨリノ益 金繰入金ヲ除ク)
  - 二 借入資本減少
  - 三 固定財産及物品受入
  - 四 他勘定計算
  - 五 未決済計算
  - 六 雑益
  - 七 他勘定ヨリ利益繰入
- 損失ニ屬スルモノ
  - 一 歳出支出済
  - 二 借入資本増加
  - 三 他勘定計算
  - 四 未決済計算
  - 五 固定財産ノ減
  - 六 雑損
  - 七 他勘定ヨリ損失繰入

第二十八條 用品勘定又ハ作業勘定ノ利益及損失ニ屬スルモノ左ノ如シ

### 第三章 會計法及會計規則

利益ニ屬スルモノ

- 一 歳入收入済
- 二 物品受入
- 三 他勘定計算
- 四 未決済計算
- 損失ニ屬スルモノ
  - 一 歳出支出済
  - 二 物品拂出
  - 三 他勘定計算
  - 四 未決済計算
  - 五 雑損

### 第五章 帳簿

第三十條 製鐵所ハ勘定毎ニ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第三十一條 製鐵所ハ勘定毎ニ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ

第三十二條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スヘシ

第三十三條 製鐵所ハ勘定毎ニ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ



登記スヘシ

製鐵所ハ支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第六章 雜則

第三十四條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

第三十五條 本令ハ大正十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 作業會計規則第三十四條中「製鐵所」及同規則第三十五條中「製鐵所長官」ヲ削ル

第三十七條 大正十六年度及大正十七年度歳入歳出ノ豫定計算書ニハ當該年度豫定損益計算表及製鐵所特別會計(作業會計法ニ依ルモノ)ノ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表又固定資本價格増減表ヲ添附スヘシ

第三十八條 本令施行前ニ於ケル製鐵所特別會計(作業會計法ニ依ルモノ)ニ屬スル財産ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬スル財産ハ從前ノ規定ニ依ル大正十五年度末ノ價格ヲ以テ其ノ受入價格トス但シ必要アルトキハ第十九條ノ規定ニ準シ之カ受入價格ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ規定スル財産カ第二十條ノ規定ニ依リ毎年價格ヲ遞減スヘキモノナルトキハ其ノ耐用年限ハ大正十六年

度ヨリ之ヲ起算シ價格ノ改定ハ大正十六年度以降之ヲ爲スヘシ

第三十九條 一般會計歳出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費及製鐵所設備補足費支辨ニ屬スル物件ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬スル物件ノ受入價格ニ付テハ第十九條第三項ノ規定ヲ準用ス

○製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律

●法律第二十八號 昭和四年三月二十九日

第一條 製鐵所特別會計ハ中華民國漢冶萍煤鐵廠鑛有限公司ニ對スル貸付資金トシテ大藏省預金部ガ昭和二年一月三十一日橫濱正金銀行ニ貸付シタル二百萬圓ニ關スル債權ノ讓渡ヲ受ケ其ノ債權額ニ相當スル金額及其ノ利息ノ債務ヲ大藏省預金部ニ對シ負擔スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ製鐵所特別會計ガ讓渡ヲ受ケタル債權ノ元本ノ償還金ハ之ヲ資本勘定ノ歳入トシ其ノ利子ハ之ヲ作業勘定ノ歳入トス

附則

本法ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 第十款 遞信省所管

#### ○簡易生命保險特別會計法

●法律第四十三號 大正五年七月十日

改正 大正一〇年第四一號

- 第一條 簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ
- 第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生スル收入、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險金、還付金、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス
- 第三條 本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ
- 本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ
- 第三條ノ二 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金全部ニ預入ルルコトヲ得
- 第四條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

### 第十一款 鐵道省所管

#### ○帝國鐵道會計法

●法律第六號 明治四十二年三月二十二日

改正 明治四十四年第一六號 大正四年第六號、一〇年第一三號 昭和四年第一三號

- 第一條 帝國鐵道ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ帝國鐵道資本及帝國鐵道用品資金並將來投資スル金額ヲ以テ資本ト爲シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 帝國鐵道資本補足ニ必要ナル金額ハ鐵道益金ヲ以テ之ニ充ツ但シ鐵道益金不足ノ場合ニ於テハ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依ル公債及借入金ノ總額ハ帝國鐵道ノ建設費、改良費及用品資金補足ノ豫算定額以內トス
- 第二條ノ二 (削除)
- 第三條 左ニ掲クル國債ハ本會計ノ負擔トス
  - 一 帝國鐵道ノ事業ヲ經營スルニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債
  - 二 第二條第一項ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金
  - 三 鐵道又ハ軌道ノ買収又ハ補償ノ爲發行シタル公債又ハ政府ノ負擔ニ歸シタル債務
  - 四 本會計ノ負擔ニ屬スル國債ノ整理又ハ償還ノ爲起債シタル國債
- 前項ニ掲クル國債ノ償還金、利子、割引料並發行及償還ニ關スル經費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ
- 第四條 本會計ハ之ヲ資本勘定、用品勘定及收益勘定ニ區分ス
- 第五條 資本勘定ハ鐵道益金繰入額、公債募集金及借入金並所屬財產ノ賣拂代金其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ建設費、改良費、國債償還金、用品資金補足其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス
- 第六條 用品勘定ハ從來ノ用品資金及將來補足スル金額ヲ以テ其ノ資金トシ用品收入、工作收入其ノ他附屬雜收入



ヲ以テ其ノ歳入トシ用品費、工作費其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歳出トス  
用品勘定ノ決算上生シタル過剰金ハ之ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第七條 收益勘定ハ鐵道營業上ノ諸收入資本所屬物件ノ貸付料及預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ鐵道營業上ノ諸費用資本所屬物件ノ維持修理及補充費並國債ノ利子、割引料其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歳出トス  
鐵道、軌道其ノ他陸運ニ關スル監督上ノ諸費用及地方鐵道補助金ハ本會計ノ負擔トシ收益勘定ノ歳出トス(昭和四年三月第一號ヲ改正)

第八條 輸送數量ノ増加其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ生シタル豫算ノ不足ヲ補フ爲收益勘定歳出ニ豫備費ヲ設クヘシ

第九條 收益勘定ニ於テ歳入總額ノ歳出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ益金トシ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ  
第十一條 資本勘定ニ屬スル資金ニシテ年度内ニ使用セザルモノハ之ヲ遞次翌年度ニ繰越スヘシ  
資本勘定ニ屬スル毎年度豫算殘額ハ事業ノ完成ニ至ル迄遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得  
第十一條ノ二 (削除)  
第十一條ノ三 (削除)

### 第十二款 拓務省所管

#### ○朝鮮總督府特別會計ニ關スル件

(參照 本令ハ憲法第八條及第七十條ニ依リタルモ、  
ノニシテ明治四十四年三月帝國議會承諾濟)

●勅令第四百六號 明治四十三年九月三十日

第一條 朝鮮總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三條 政府ハ毎年朝鮮總督府特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

#### 附則

第四條 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 鐵道、森林、平壤鑛業所及公債金ノ特別會計並通信ノ會計ニ付テハ明治四十三年度分限リ仍從前ノ例ニ依ル

第六條 舊韓國政府ニ屬シタル債權及債務ニシテ本令施行ノ際現存スルモノハ本會計ニ移屬ス

第七條 明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計年度ハ明治四十三年九月三十日ヲ以テ終結ス

第十二條 本會計ニ於テ仕拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得  
本會計ノ各勘定ニ於テハ相互間資金ノ繰替ヲ爲スコトヲ得  
一時借入金融通證券ニ依ル資金及繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第十三條 本會計ニ於テ仕拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第十四條 (削除)  
第十五條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法ニ依リ本會計ニ於テ借入金又ハ一時借入金ヲ要スル場合ニ一般會計各特別會計ハ其ノ資金ニ餘裕アルトキハ之ニ對シ貸付ヲ爲スコトヲ得

#### 附則

第十七條 本法ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國鐵道會計法及帝國鐵道用品資金會計法ハ之ヲ廢止ス  
【但シ明治四十一年度分及韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス】

第十八條 鐵道敷設法北海道鐵道敷設法及事業公債條例ノ規定ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

第十九條 本法施行前ニ於ケル帝國鐵道特別會計及帝國鐵道用品資金特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ

前項ノ豫算ニ計上シタル一時借入金ハ本會計ノ負擔ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ノ歳入歳出並統監府及其ノ所屬官署ニ係ル歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ明治四十三年十二月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第九條 第七條ノ經費並統監府及其ノ所屬官署ノ經費ノ支辨ニ屬スル工事又ハ製造ニシテ明治四十三年九月三十日迄ニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未濟ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條 前條ノ經費支辨ノ諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ又ハ仕拂義務ヲ生シ明治四十三年九月三十日迄ニ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未濟ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ使用スルモノトス

第十一條 第七條ノ會計ノ過不足ハ之ヲ本會計ニ移シ整理ス

#### ○朝鮮總督府特別會計規則

●勅令第四百七號 明治四十三年九月三十日

改正 大正二年第四號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ朝鮮總督ヲ以テ支出官トシ朝鮮總督府



特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム

朝鮮總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條 朝鮮總督ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣及會計検査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 朝鮮總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第五條 朝鮮總督ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六條ノ二 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ朝鮮總督ニ送付スヘシ

第六條ノ三 朝鮮總督ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

附則 (大正十一年三月二十七日勅令第四十三號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限リ四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徴收總報告書及支出總報告書ハ参照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

朝鮮鐵道用品資金會計法

●法律第十八號 大正十四年三月三十日

第一條 鐵道用品ヲ購入貯藏及製作修理シ朝鮮鐵道ノ運輸營業及建設事業ノ需用ニ應スル爲朝鮮鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 朝鮮鐵道用品資金ハ大正十四年四月一日ニ於テ朝鮮總督府ノ保管ニ歸スル元朝鮮鐵道用品資金ノ額ニ相當スル鐵道用品ノ貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ尙朝鮮總督府特

第六條ノ四 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ送付スヘシ

第六條ノ五 朝鮮總督ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 朝鮮總督ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 朝鮮總督府ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十條 朝鮮總督府ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十一條 本令ニ規定セザルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百二十五條、第一百二十六條、第二百二十九條、第三百三十四條、第三百三十五條第二項、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百四十四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ朝鮮總督トス

附則 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別會計ヨリ漸次繰入レテ三百萬圓トス

第三條 本會計ハ鐵道用品ノ賣拂代及修理代並附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ鐵道用品ノ購入代、製作費、改製費及修理費並附屬諸費ヲ以テ歳出トス

第四條 本會計ノ決算上生シタル過剩金ハ之ヲ同年度朝鮮總督府特別會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第五條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本會計ノ經營ニ妨ナキ限り一般ノ需用ニ應シ機械其ノ他ノ物品ノ製作修理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本會計ニ屬スル用品ヲ以テ其ノ材料ニ充ツルコトヲ得

附則 本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮鐵道用品資金會計規則

●勅令第四十八號 大正十四年三月三十一日

第一條 本會計ノ歳入歳出豫定計算書ニハ前前年度ノ受拂勘定表ヲ添附スヘシ



- 第二條 本會計ハ資金ニ屬スル現金ノ持越高並當該年度ノ資金繰入高及收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三條 貯藏物品中購入品ハ購入費ヲ以テ、新製、改造品又ハ修理品ハ材料價格及工作費ヲ以テ其ノ原價トス  
前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ見積價格ヲ以テ原價ト爲スコトヲ得
- 第四條 貯藏物品腐朽、毀損、變質其ノ他ノ事由ニ因リ價格減少シタルトキハ毎年度ノ終ニ於テ其ノ原價ヲ改定スヘシ
- 第五條 貯藏物品ノ原價ニ對シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ取扱諸費及損減歩合ヲ割掛ケタルモノヲ以テ物品ノ賣價トス
- 第六條 貯藏物品ノ損減歩合ハ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ因リ生シタル既往ノ損減高及亡失、毀損、變質、減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第七條 毎年度内ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟ト爲ラサルモノハ收入未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ
- 第八條 毎年度ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得  
(昭和二年四月第五八號ヲ以テ但書追加)

- 第九條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第十條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ
  - 一 歳入ノ收入濟額
  - 二 歳入ノ收入未濟額
  - 三 資金ニ屬スル現金ノ持越高
  - 四 資金繰入高
  - 五 總貯藏物品ノ價格
  - 六 代價支出濟未收物品ノ價格
- 第十一條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ
  - 一 歳出ノ支出濟額
  - 二 歳出ノ支出未濟額
  - 三 資金額
  - 四 前受金
  - 五 代價收入濟物品ノ價格
  - 六 代價收入未濟既出物品ノ價格
  - 七 損失ニ歸シタル物品ノ價格
  - 八 損失金
- 第十二條 帳簿ニ關スル規則ハ作業會計規則第六章ノ例ニ依ル
- 第十三條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ朝鮮總督府特別

會計規則ノ例ニ依ル

附則

本令ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年六月二十九日勅令第二百十四號ヲ以テ昭和四年七月一日ヨリ施行)

○朝鮮簡易生命保險特別會計法

●法律第六十五號 昭和四年五月四日

- 第一條 朝鮮總督府ニ於テ簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツ
- 第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生ズル收入、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、還付金、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス
- 第三條 本會計ニ於ケル歳入總額ノ歳出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツベシ
- 本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ
- 第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得
- 第五條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
- 第六條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 會計法及會計規則

○朝鮮簡易生命保險特別會計規則

●勅令第六十六號 昭和四年五月四日

- 第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ニハ前前年度三月三十一日現在ノ積立金明細目錄ヲ添附スベシ
- 第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ
- 第三條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ朝鮮總督ハ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ノ承認ヲ受ケ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ
- 第四條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラザルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出トス
- 第五條 歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收



- 報告書又ハ支出濟額報告書ヲ以テ徵收總報告書又ハ支出總報告書ニ充ツルコトヲ得
- 第六條 毎年度ニ於ケル歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額ヲ控除シタル過剩額ハ之ヲ積立金ニ組入ルベシ
- 前項歳入ノ收入濟額ガ歳出ノ支出濟額ニ對シ不足アルトキハ之ヲ積立金ヨリ補足スベシ
- 第七條 朝鮮總督府ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ朝鮮簡易生命保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ
- 第八條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ
- 第九條 朝鮮總督府ハ歳出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得
- 第十條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ朝鮮總督府特別會計規則ノ例ニ依ル

附則

本令ハ朝鮮簡易生命保險特別會計法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府特別會計法

●法律第二號 明治三十年二月二十六日

第一條 臺灣總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計

- ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ
- 第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三條 本法ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府特別會計規則

●勅令第二十七號 明治三十年三月十一日

改正 明治三〇年第三二七號、三五五年第二〇二號、大正一二年第四五號

- 第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第二條 所管大臣ハ臺灣總督ヲ以テ支出官トシ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム
- 臺灣總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得
- 第三條 臺灣總督ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計檢査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更訂シタルトキ亦同シ
- 第四條 臺灣總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣

- ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ
- 大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ
- 第五條 臺灣總督ハ一般會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ
- 第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ
- 第六條ノ二 歳入徵收官ハ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ
- 第六條ノ三 臺灣總督ハ徵收報告書ニ依リ毎月徵收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月ノ翌月ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第六條ノ四 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ
- 第六條ノ五 臺灣總督ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第七條 臺灣總督ハ土地ノ情況ニ依リ一般會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得
- 第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ

- 第九條 臺灣總督府ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ
  - 第十條 臺灣總督府ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ
  - 第十一條 本令ニ規定セザルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十七條、第九十八條、第一百四條、第一百二十五條、第一百二十六條、第二百二十九條、第三百三十四條、第三百四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ臺灣總督トス
- 附則 (大正十一年三月二十七日勅令第四十五號)
- 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限り四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス
- 大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徵收總報告書及支出總報告書ハ参照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ



○臺灣官設鐵道用品資金會計法

●法律第十三條 明治三十五年三月八日

改正 明治四〇年第四號昭和二年第五號

第一條 鐵道用品ヲ購入貯藏シ臺灣官設鐵道ノ運輸營業並建設事業ノ需用ニ應スル爲臺灣官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 臺灣官設鐵道用品資金ハ本法施行ノ年度始現在ノ臺灣總督府鐵道部ニ於ケル貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ尙必要ニ應シ臺灣總督府特別會計ヨリ漸次繰入シテ百萬圓トス(昭和二年三月號五號ヲ以テ改正)

第三條 臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル用品ヲ使用スルトキハ臺灣官設鐵道所屬ノ經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條 臺灣官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル鐵道用品ノ製作、改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第五條 臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル鐵道用品ノ賣拂價格ハ其ノ自然ノ損減歩合、製作、改製及修理費並其ノ附屬費用及購入ニ附隨スル諸費ヲ其ノ購入原價ニ加算シテ之ヲ定ムヘシ

○臺灣官設鐵道用品資金會計規則

●勅令第四百十號 明治三十五年四月十七日

改正 大正二年第四六號

第一條 臺灣官設鐵道用品資金ハ貯藏物品賣拂代金並附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ物品購入代製作費改製費修理費並附屬諸費ヲ以テ歳出トス

第二條 臺灣官設鐵道用品資金ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 貯藏物品ノ購入原價ニシテ自然ノ腐朽又ハ毀損變質減量等ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ毎年度ノ終ニ於テ之ヲ改定スヘシ

第四條 貯藏物品ノ損減歩合ハ自然ノ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ因リ生シタル既往ノ損減高及亡失毀損變質減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ムルモノトス

第五條 毎年度内ニ於テ歳入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ歳入済トナラサルモノハ歳入未済トシテ順次翌年度へ繰越シ現ニ歳入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第六條 毎年度ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出すハ當該年度三月三十一日限トス

第七條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時効完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル毎ニ小切手ヲ振出すヘシ但シ支出未済ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未済額

第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總貯藏物品ノ價格

第三章 會計法及會計規則

○關東廳特別會計法

●法律第十七號 明治四十年三月二十日

第一條 關東(都督府)ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

一五四ノ八



第二條 關東(都督府)特別會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年關東(都督府)特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳特別會計法

●法律第十八號 明治四十年三月二十日

第一條 樺太廳ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 樺太廳特別會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年樺太廳特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

○關東廳及樺太廳特別會計規則

●勅令第八十七號 明治四十年三月三十日

改正 大正二年第四七號

第一條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ關東廳ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官ヲ以テ支出官トシ各其ノ特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム

關東長官及樺太廳長官ハ部下ノ官吏ニ分任シテ各其ノ特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條 關東長官及樺太廳長官ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 關東長官及樺太廳長官ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰換ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六條ノ二 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ關東長官又ハ樺太廳長官ニ送付スヘシ

第六條ノ三 關東長官及樺太廳長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條ノ四 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ關東長官又ハ樺太廳長官ニ送付スヘシ

第六條ノ五 關東長官及樺太廳長官ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 關東長官及樺太廳長官ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 關東廳及樺太廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十條 關東廳及樺太廳ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十一條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、

第九十二條、第九十七條、第九十八條、第四百四條、第四百二十五條、第四百二十六條、第四百二十九條、第四百三十四條、第四百三十五條第二項、第四百三十六條乃至第四百三十八條、第四百四十四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ關東長官又ハ樺太廳長官トス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(大正十一年三月二十七日勅令第四十七號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限リ四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徴收總報告書及支出總報告書ハ参照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ



○南洋廳特別會計法

●法律第二十五號 大正十一年三月三十一日

第一條 南洋廳ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 南洋廳特別會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年南洋廳特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

○南洋廳特別會計規則

●勅令第三百三十一號 大正十一年三月三十一日

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ南洋廳長官ヲ以テ支出官トシ南洋廳特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム

南洋廳長官ハ部下ノ官吏ニ分任シテ南洋廳特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條 南洋廳長官ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ所管大臣ヲ經由

シテ大藏大臣及會計検査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 南洋廳長官ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第五條 南洋廳長官ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額及理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ添附シ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ南洋廳長官ニ送付スヘシ

第八條 南洋廳長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ南洋廳長官ニ送付スヘシ

第十條 南洋廳長官ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十一條 南洋廳長官ハ土地ノ情況ニヨリ會計規則第九十

九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第十二條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ依リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十三條 南洋廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、決定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十四條 南洋廳ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十五條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十七條、第九十八條、第四百四條、第四百二十五條、第四百二十六條、第四百二十九條、第四百三十四條、第四百三十五條、第四百三十六條乃至第四百三十八條、第四百四十四條及第四百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ南洋廳長官トス

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス  
沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂並其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス  
(參照)

本法中第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ大正十一年法律第四十三號國有財產法第三十一條ニ依リ大正十一年四月一日ヨリ失効

○北海道國有林野及產物處分令

勅令第二百八十六號 明治四十一年十一月二十八日

改正 昭和三年第三七號

第一條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國

第五章 國有財產

有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂ヒ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ國有林野ヲ賣拂ヒ、貸付シ、讓與シ、交換シ又ハ使用セシムルコトヲ得(昭和三年一〇月第三七號勅令改正)

- 一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ
- 二 區町村其ノ他公共團體ノ基本財産ニ充ツル爲賣拂フトキ
- 三 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故者ニ賣拂フトキ
- 四 現ニ北海道ニ於テ鑛業又ハ北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル林野ヲ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル二十町步以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
- 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
- 七 宅地、耕地、牧場、放牧地、植樹地又ハ海産干場ニ供スル爲貸付スルトキ
- 八 北海道廳長官ノ定メタル重要製産品製造業ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ
- 九 木材業附帶ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ
- 十 見積借地料一年金三百圓ヲ超エサル林野ヲ貸付スルトキ



- 十一 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ(昭和三年一月第二三號ヲ以テ追加)
- 第三條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ國有林野ノ產物若ハ土石ヲ賣拂ヒ又ハ無料採取セシムルコトヲ得
  - 一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ
  - 二 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ
  - 三 北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フトキ
  - 四 前號ノ場合ニ於テ原料以外ノ產物ヲ併セ處分スルニ非サレハ森林經營上支障アルニ因リ之ヲ同時ニ賣拂フトキ
  - 五 施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競争ニ付スルトキハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル場合ニ於テ其ノ森林ノ產物ヲ北海道廳長官ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ
  - 六 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築、營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ
  - 七 見積價格金千圓ヲ超エサル產物又ハ土石ヲ賣拂フトキ(昭和三年一月第二三號ヲ以テ追加)
  - 八 鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ
  - 九 河海、沼湖、濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣拂フトキ
  - 十 國有林野ノ保護及更新上必要ト認ムル場合ニ於テ制限ヲ付シ地元人民ニ其ノ產物ヲ採取セシムルトキ
  - 十一 官廳ノ土木建築ニ必要ナル材料ヲ其ノ工事ノ請負人ニ賣拂フトキ(昭和三年一月第二三號ヲ以テ追加)

第四條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セス又ハ指定ノ期間内ニ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十五年勅令第二百七號(北海道國有森林原野ニ關スル特別處分ノ件)ハ之ヲ廢止ス

○沖繩縣國有林野特別處分ニ關スル件

●勅令第九十一號 明治三十九年七月二十六日  
改正 大正三年第一三號

- 第一條 沖繩縣下ノ國有林野ニシテ國土保安上又ハ其ノ經營上國有トシテ保存スルノ必要ナキモノハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂ヲ爲スコトヲ得
  - 一 國有林野ヲ其ノ造林保護ヲ爲シタル區又ハ町村ニ賣拂フトキ
  - 二 土地整理以前ニ開墾又ハ牧畜ノ爲貸付シタル國有林野ヲ其ノ事業ヲ成效シタル者ニ賣拂フトキ
- 前項ニ依リ區又ハ町村ニ賣拂ヒタル國有林野ノ代金ニ付テハ三十箇年以内年賦延納ヲ許可スルコトヲ得
- 第二條 國有林野ノ產物ハ「農商務大臣」ノ定ムル所ニ依リ造林保護ヲ爲シタル區又ハ町村ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

- 二 無煙炭、煉炭、森林產物、木材及製成品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金二千圓以上ナルトキハ一年以内、五百圓以上一千圓未滿ナルトキハ六月以内之ヲ許可ス
- 三 煙草ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金輸出ニ供スル煙草ニシテ三千圓以上ナルトキハ六月以内、其ノ他ニ在リテハ五百圓以上ナルトキニ限り三月以内之ヲ許可ス但シ江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道及咸鏡北道ニ於ケル僻遠ノ地方ニ限り特ニ五月以内之ヲ許可スルコトヲ得(昭和二年六月第四號ヲ以テ追加)
- 四 人參製品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金三百圓以上ナルトキニ限り三月以内之ヲ許可ス(大正一五年七月第七號ヲ以テ追加)
- 五 林野ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金二千圓以上ナルトキハ二年以内之ヲ許可ス(昭和二年七月第五號ヲ以テ追加)
- 六 血清及豫防液類ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金百圓以上ナルトキハ三月以内之ヲ許可ス(昭和三年七月第七號ヲ以テ追加)
- 第二條 延納ノ許可ヲ受クル者ニハ擔保物トシテ延納スヘキ賣拂代金ト同額以上ノ國債證券ヲ提供セシムルモノトス但シ分割引渡ヲ約シタル物件ノ賣拂ニ付テハ其ノ引渡物件ノ代金ト同額以上ヲ引渡ノ都度提供セシムルコトヲ得
- 第三條 代金延納ヲ許可シタル物件ノ引渡ハ其ノ擔保物提供

第七章 收入、支出及出納官吏

供ノ後之ヲ爲スモノトス  
 第四條 當時第一條各號ニ掲クル物件ノ賣拂ヲ受クル者代金納付ノ擔保物ヲ豫メ提供シ置クトキハ之ニ對シ其ノ擔保物ノ價額ニ達スル迄延納ヲ許可スルコトヲ得  
 第五條 擔保物タル國債證券ハ當該官署ニ之ヲ提供スヘシ但シ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スルコトヲ得  
 第六條 林野、森林產物、木材及製成品ノ賣拂ヲ受クル公共團體ニ對シテハ擔保物ノ提供ヲ免除スルコトアルヘシ(昭和七年第五號ヲ以テ追加)

附則  
 明治四十四年朝鮮總督府令第四百四十七號物品賣拂代金延納規則ハ之ヲ廢止ス

○物件賣拂代金延納ニ關スル件

●臺灣總督府令第一百五十五號 大正十年十月一日公布  
改正 大正二年第一四三號 昭和二年第九號 四年第二號  
 同十年十月二十四日當該機關

第一條 大正十年勅令第三百七十四號ニ依リ延納ヲ許可スルハ左ノ物件賣拂代金ニシテ第一號乃至第三號ニ在リテハ一口五百圓以上、第四號ニ在リテハ一口二百圓以上ナル場合ニ限ル(昭和二年三月第九號ヲ以テ追加)

- 一 樟腦、樟腦油、樟腦副產物、煙草、阿片煙膏、粗製モルヒネ、酒及酒糟(臺灣總督府令昭和四年二月第一二號ヲ以テ追加)
- 二 度量衡器



三 國有林野產物及其ノ製品  
四 食鹽(昭和二年三月第九號ヲ以テ追加)

第二條 延納期限ハ煙草、酒、酒糟及本島内ニ於テ消費スル食鹽ニ在リテハ四月内其ノ他ニ在リテハ六月内トス但シ當分ノ内國有林野產物及其ノ製品ニ限り一年内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得(昭和二年三月第九號、臺灣總督府令)

第三條 國有林野產物及其ノ製品賣拂代金ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ擔保ヲ免除スルコトヲ得  
一 公共團體ニ賣拂フトキ  
二 法人ニ賣拂フ場合ニ於テハ信用確實ニシテ延納金ノ總額カ其ノ拂込資本金額ノ二分ノ一ヲ超エサルトキ  
三 個人ニ賣拂フ場合ニ於テハ信用確實ニシテ延納金ノ總額カ其ノ資産ノ二分ノ一ヲ超エサルトキ

附則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス  
従前ノ規定ニ依リ延納ヲ許可シタルモノハ其ノ期間満了ノ日マテ仍其ノ效力ヲ有ス

○樺太廳ニ屬スル生産物賣拂代金延納ニ關スル件

樺太廳令第四十五號

大正十年十一月十一日公布  
同令十二月二十九日官報掲載  
改正 大正十一年第一六號

樺太廳ニ屬スル鑛產物、水產物及林產物ノ賣拂代金ハ一口五百圓以上ナル場合ニ限り國債ヲ擔保トシテ提供セシメ一年内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ左ノ場合ニ限り擔保ヲ免除スルコトヲ得

一 公共團體ニ賣拂フトキ  
二 樺太内ニ本店ヲ有シ資本金二百萬圓以上ヲ有スル法人又ハ樺太内ニ本店ヲ有セサルモ資本金千萬圓以上ヲ有スル法人ニ賣拂フトキ  
三 樺太内ニ住所ヲ有シ資産五十萬圓以上ヲ有スル者又ハ樺太内ニ住所ヲ有セサルモ資産二百五十萬圓以上ヲ有スル者ニ賣拂フトキ

附則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

○物件賣拂代金延納規則

南洋廳令第十號

大正十二年四月一日公布  
同令十三年二月二十日官報掲載

第一條 南洋廳及所屬官署ニ於テ物件賣拂代金ノ延納ヲ許可スル場合及其ノ延納期間ハ左ノ各號ニ依ル

一 林產物ヲ賣拂フ場合ニ於テハ一口ノ賣拂代金三百圓以上ナルトキハ三月以内千圓以上ナルトキハ一年以内之ヲ許可ス

○郵便官署ニ於ケル各廳歲入金及歲出金取扱規則

逓信省令第八號 大正四年一月二十八日

改正 大正七年第三五號、九年第九八號、十一年第一六號、昭和三年第六四號

第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 稅務官署ノ直接徵收スル國稅金
  - 二 北海道、府縣及稅務官署ノ收納スル國庫ノ諸收入金
  - 三 收入官吏カ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘキ前二號ノ收入金
  - 四 市區町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
  - 五 日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歲出金
- 第二條 前條第一號及第二號ノ國稅金及諸收入金ヲ國庫ニ納付セムトスル者ハ歲入ヲ徵收スル官吏ニ於テ其ノ納付場所ヲ特ニ限定シタル場合ヲ除クノ外其ノ歲入ヲ徵收ス

第七章 收入、支出及出納官吏

ル官吏ノ在勤廳ト同一ノ道廳府縣内ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ之カ納付ヲ爲スコトヲ得  
納人前項ノ納付ヲ爲サムトスルトキハ歲入ヲ徵收スル官吏ノ發シタル令書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ

第三條 市區町村又ハ收入官吏其ノ領收シタル歲入金ヲ日本銀行ニ送付セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ送付書又ハ拂込書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ヘシ

第四條 郵便局ニ於テ前二條ニ依リ現金ヲ受入レタルトキハ其ノ通知書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ受入郵便局ヨリ送付ニ係ル通知書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該歲入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ且別記書式ニ依リ受入金額ニ相當スル歲入金振替證券ヲ發行シ之ヲ取扱店タル日本銀行ニ送付シ受入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 前條ノ振替證券ニ對シテハ日本銀行本店ノ請求ニ依リ貯金局ニ於テ其ノ振替計理ヲ爲スヘシ

第六條 日本銀行所在地外ニ於テ支拂ヲ受クヘキ債主ニ於テ支出官ヨリ郵便局振込出金支拂通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ受領年月日ヲ記入シ記名調印ノ上之ヲ當該郵便局ニ差出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ  
郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ支拂通知書ヲ日本銀行ヨリ送付ニ係ル各廳歲出金繰替拂案内書ニ



第七章 收入、支出及出納官吏

對照シタル上之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第七條 前條ニ依リ郵便局ニ於テ歳出金ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ其ノ支拂通知書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ拂渡郵便局ヨリ送付ニ係ル支拂通知書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該日本銀行ニ送付シ之ニ對スル代リ金振替拂證書ヲ受取ルヘシ

貯金局ニ於テハ前項ノ代リ金振替拂證書ニ依リ日本銀行本店ヨリ其ノ代リ金ノ振替受入ヲ爲スヘシ

第八條 郵便局扱歳出金支拂通知書發行ノ日ヨリ六十日以内ニ債主ヨリ拂渡ノ請求ナキトキハ郵便局ハ繰替拂案内書ヲ所屬日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ期間經過後ニ於テ債主ヨリ拂渡ノ請求アルモ拂渡郵便局ハ當該日本銀行ヨリ繰替拂案内書ノ再送ヲ受クルニアラサレハ之カ拂渡ヲ爲サス

第九條 債主ニ於テ郵便局扱歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ金額、番號、所屬年度、小切手ヲ當テラレタル日本銀行名、拂渡郵便局名、支拂通知書ヲ發行シタル官廳名ヲ記載シタル届書ヲ拂渡郵便局ニ差出スヘシ

拂渡郵便局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該日本銀行ニ廻付スヘシ

第十條 債主ニ於テ支出官ヨリ再發行ニ係ル郵便局扱歳出金支拂通知書ノ送付ヲ受ケタル場合ノ拂渡ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス(昭和三年一月第)

附則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十一年三月二十九日逓信省令第十號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
従前調製ニ係ル歳入金振替證券ノ用紙ハ當分ノ内之ヲ訂正使用スヘシ  
(別記)

歳入金振替證券第 號

|  |                   |     |
|--|-------------------|-----|
| 年度   | 大 正 年 度           |     |
| 所屬歳入徴收官振替拂込  | 日本銀行(何)店          |     |
| 口數   | 計所屬月算             | 月 分 |
| 金額   | 十 萬 千 百 十 圓 十 錢 厘 |     |
| 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス<br>附則<br>●勅令第十五號 昭和二年二月七日<br>出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務ニシテ昭和元年十二月二十五日前ニ於ケル事由ニ因ルモノハ將來ニ向テ之ヲ免除ス但シ犯罪行為ニ因ル本人ノ債務ハ此ノ限ニ在ラズ<br>附則<br>本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス<br>(參照)<br>●勅令第二百七十六號 昭和三年十一月十日<br>出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務ニシテ昭和三年十一月十日前ニ於ケル事由ニ因ルモノハ將來ニ向テ之ヲ免除ス但シ犯罪行為ニ因ル本人ノ債務ハ此ノ限ニ在ラズ<br>附則<br>本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス<br>(參照)<br>●勅令第十五號 昭和二年二月七日<br>出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務ニシテ昭和元年十二月二十五日前ニ於ケル事由ニ因ルモノハ將來ニ向テ之ヲ免除ス但シ犯罪行為ニ因ル本人ノ債務ハ此ノ限ニ在ラズ<br>附則<br>本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス |                   |     |

第八號書式乙

現金及預託金現在高書

|  |        |   |                 |    |
|--|--------|---|-----------------|----|
| 現金在高   | 預託金現在高 | 計 | 振出済小切手<br>支拂未済高 | 備考 |
|  |        |   |                 |    |
| 上記ノ通引繼<br>大正「何」年「何」月「何」日<br>「前任出納官吏官氏名」<br>「後任出納官吏官氏名」 | ヲ了シ候也  |   |                 |    |
| 一用紙ハ美濃判半裁トス<br>二現金在高ハ其ノ金種類ヲ備考欄ニ區分記載スヘシ                 |        |   |                 |    |

第七章 收入、支出及出納官吏



第九章 俸給及諸給與

第一節 俸給

○高等官官等俸給令

勅令第三百三十四號 明治四十三年三月二十八日

改正 明治四十三年第二〇八號 中略 昭和四年第二二號

第一條 親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ

九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條 奏任官ノ任免及敍等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條 初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陸シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第九章 俸給及諸給與

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陸級スルコトヲ得ス

陸海軍武官ヲ其ノ部内ノ文官ニ任用シタル場合ニ於テハ武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス

第六條 親任式ヲ以テ敍任スル官、内閣書記官長、特命全權公使及辦理公使ニ任セラルル場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ、文官任用令第一條(第四項)ノ規定ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條 親任式ヲ以テ敍任スル文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

|   |          |
|---|----------|
| 内閣總理大臣                                      | 年俸 一萬二千圓 |
| 各省大臣、朝鮮總督                                   | 年俸 八千圓   |
| 樞密院議長、特命全權大使、判事、檢事、臺灣總督、關東長官、會計檢査院長、行政裁判所長官 | 年俸 七千五百圓 |
| 樞密院副議長、朝鮮總督府政務總監                            | 年俸 七千圓   |
| 樞密顧問官                                       | 年俸 六千五百圓 |

第八條 勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ(以下略ス)

第九條 勅任文官 親任式ヲ以テ敍任ニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官 親任式ヲ以テ敍任ノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス



前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ  
勅任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコ  
トヲ得

第九條ノ二 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ  
三年以上(各省參與官ニ在リテハ一年以上)高等官二等ニ  
在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞叙スルコト  
ヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ  
最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ  
之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス  
前官高等官一等ノ勅任文官ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ  
最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等  
官一等ニ叙スルコトヲ得

第十條 神宮皇學館教授、陸軍大學校及海軍大學校以外ノ  
陸軍及海軍諸學校教官タル陸軍教授又ハ海軍教授ニシテ  
五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り高  
等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和四年七月第二  
號ヲ以テ改正)

高等師範學校教授又ハ文部省直轄諸學校教授ニシテ五年  
以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ六十人ヲ限り  
高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコ  
トヲ得ス(昭和四年四月第四  
號ヲ以テ改正)

北海道帝國大學豫科、附屬土木専門部、附屬水産専門部教  
授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各科ヲ  
通シテ三人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得  
官立大學豫科教授又ハ官立大學附屬専門部教授ニシテ五

年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ六人ヲ限り  
高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和四年四月第四  
號ヲ以テ改正)

京城帝國大學豫科教授又ハ朝鮮總督府專門學校教授ニシ  
テ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り  
高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

臺北帝國大學附屬農林專門部教授又ハ臺灣總督府諸學校  
教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シ  
テ二人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得(昭和二年二月  
五號ヲ以テ改正)

旅順工科大学豫科教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ  
功績アル者ハ一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得  
第十一條 各廳ニ於テ勅任技師ヲ置クコトヲ要スルモノハ  
官制ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別  
表第二表各號ノ一ニ依ル  
第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等  
乃至七等、同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等、同  
第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)  
第十五條 別表第二表第二號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)  
第十六條 別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ(以下略ス)  
第十七條 在外公館職員タル高等文官ノ年俸ハ別ニ定ムル  
モノヲ除クノ外別表第三表ニ依ル

官、公使館商務書記官、奏任官タル總領事、領事又ハ貿易  
事務官ニシテ五年以上年俸四千五百圓ヲ受ケテ在職シ功  
績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコ  
トヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ年  
俸四千五百圓以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ年  
俸四千五百圓ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ  
第二項ニ掲クル官ニ任スル際ハ特ニ第二項ノ年功加俸ヲ  
給スルコトヲ得

大使館理事官、公使館理事官又ハ副領事ニシテ三年以上  
高等官五等ニ在リ功績顯著ナル者ハ一等ヲ陞叙スルコト  
ヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官五等以上ノ  
在職年數ハ之ヲ前項ニ規定スル在職年數ニ通算ス

第二十條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用  
ス  
第五項ノ規定ニ依リ一等ヲ陞叙セラレタル大使館理事  
官、公使館理事官又ハ副領事ニハ年俸三千八百圓迄ヲ給  
スルコトヲ得

第十八條 前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ  
年俸ハ別表第四表又ハ第五表ニ依ル但シ別段ノ定アルモ  
ノハ此ノ限ニ在ラス  
第十九條 別表第二表第一號乃至第三號又ハ別表第五表ニ

依ル奏任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ  
在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ  
給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ現  
官ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ一  
級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ  
奏任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコ  
トヲ得

第二十條 高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏  
任文官ヲ除クニシテ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職  
シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞叙スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官四等以上ノ  
在職年數ハ之ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル現官ノ最高  
官等ノ在職年數ニ、高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ高  
等官五等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ  
通算ス  
第四條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル文官他ノ文官ト爲ル場合  
ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ明治三十六年勅令第二  
百八十五號第三條ノ規定ニ依リ叙シ得ル官等ニ依ル  
第二十一條 第九條ノ二第二項、第十七條第六項及前條第  
二項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シテ官等ヲ陞叙スル場  
合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス  
第二十一條ノ二 前官第二十條第一項ノ規定ニ依リ高等官



三等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官四等ヲ最高官等ト  
スル奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官三等ニ  
前官第十七條第五項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ高  
等官四等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官五等ヲ最高官  
等トスル奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官四等  
ニ敍スルコトヲ得

第二十二條 陸海軍武官ノ俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ  
依ル

現役武官ニシテ高等文官タル者其ノ武官トシテ受クヘキ  
俸給額カ文官トシテ受クヘキ俸給額ヨリ多キトキハ武官  
ノ俸給額ヲ其ノ所屬廳ニ於テ給スルコトヲ得

第二十二條ノ二 豫備判事又ハ豫備檢事ヲ命セラレタル判  
事、檢事、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事ノ俸給ハ十一  
級以下トス

第二十三條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分  
ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉  
妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタ  
ル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ  
者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督  
相續人、戸主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ  
一ヲ給スルコトヲ得(昭和四年五月第一  
三號ヲ以テ追加)

終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シタル場合ニ限り前四項

ノ規定ヲ適用ス(昭和四年五月第一  
三號ヲ以テ改正)

第二十四條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第二十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ  
計算ス但シ廢官又ハ廢廳ニ因ル退官者即日他官ニ任セラ  
ルルトキハ發令ノ當日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸  
ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 俸給令ノ改正ニ因リ新ニ給スヘキ俸給ハ改正  
規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十七條 廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算  
トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十八條 休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ  
命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年  
俸ヲ給ス

第二十九條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及  
私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸  
給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ  
又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ  
限ニ在ラス

第三十條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス(以下略ス)

附則 (大正九年八月十八日勅令第二百五十七號)

附則 (昭和四年四月一日勅令第四十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ文部省直轄諸學校ノ教授ニシテ官立大學  
附屬專門部又ハ高等師範學校ノ教授ニ任セラレタル者ノ文  
部省直轄諸學校ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ第十條  
第二項又ハ第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ官立大學附屬  
專門部又ハ高等師範學校ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職  
ト看做ス

本令施行ノ際現ニ文部省直轄諸學校ノ教授ニシテ高等官二  
等ニ在ル者ヲ官立大學附屬專門部又ハ高等師範學校ノ教授  
ニ任ズル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

(第一表略ス)

第二表

奏任文官年俸表

| 級   | 第一號                    | 第二號                    | 第三號                    |
|-----|------------------------|------------------------|------------------------|
| 一級  | 四、五〇〇 <small>圓</small> | 三、八〇〇 <small>圓</small> | 三、一〇〇 <small>圓</small> |
| 二級  | 四、一〇〇                  | 三、四〇〇                  | 二、七〇〇                  |
| 三級  | 三、八〇〇                  | 三、一〇〇                  | 二、四〇〇                  |
| 四級  | 三、四〇〇                  | 二、七〇〇                  | 二、〇〇〇                  |
| 五級  | 三、一〇〇                  | 二、四〇〇                  | 一、八〇〇                  |
| 六級  | 二、七〇〇                  | 二、〇〇〇                  | 一、六〇〇                  |
| 七級  | 二、四〇〇                  | 一、八〇〇                  | 一、四〇〇                  |
| 八級  | 二、〇〇〇                  | 一、六〇〇                  | 一、一〇〇                  |
| 九級  | 一、八〇〇                  | 一、四〇〇                  | 一、一〇〇                  |
| 十級  | 一、六〇〇                  | 一、二〇〇                  | 一、〇〇〇                  |
| 十一級 | 一、四〇〇                  | 一、一〇〇                  | 九〇〇                    |
| 十二級 | 一、二〇〇                  |                        |                        |

(第三表、第四表、第五表略ス)



●勅令第三百三十五號 明治四十三年三月二十八日  
改正 明治四十四年三月二十八號 中略 昭和四年第一二四號

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第二條 陸海軍准士官及下士ハ判任トシ其ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給ス

○判任官俸給令

ルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ二百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 各廳技手ハ判任トシ各廳事務ノ繁閑ニ依リ別表最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第七條 警視廳、北海道廳、府縣及監獄判任官並稅務監督局屬、稅務署屬、專賣局書記及朝鮮總督府航路標識看守ニハ別表最低額以下二十圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得但シ港吏、港務醫官補、港務獸醫官補、港務藥劑手及府縣通譯ハ此ノ限ニ在ラス

道廳及府縣視學ノ月俸ハ別表八級俸以上トス

第八條 削除(大正一五年八月第二七四號ヲ以テ削除)

第九條 各廳警部補ノ月俸ハ四十圓以上八十五圓以下トス

第十條 左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十五圓以上八十五圓以下トス(大正一五年八月第二七四號ヲ以テ改正)

健康保險署書記補

各廳稅關監吏

各廳稅務吏

各廳森林主事

北海道廳河川監守

第十一條 左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十圓以上八十五圓以下トス

貯金局書記補

簡易保險局書記補

遞信局書記補

各廳遞信書記補

各廳遞信書記補

臺灣總督府交通主事

第十二條 前三條ノ判任文官最上俸給ヲ受ケ三年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得(大正一五年八月第二七四號ヲ以テ改正)

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戶籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督相續人、戶主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得(昭和四年五月第一三四號ヲ以テ追加)

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ノ例ニ依ル

第十五條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則 (大正九年八月十八日勅令第二百五十八號)

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八



第九章 俸給及諸給與

項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス  
從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受クル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クルトキハ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ五級俸以上ニ於テ級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ノ級俸ニ付之ヲ準用ス  
第八條乃至第十一條ニ掲ケル判任支官ノ從前ノ規定ニ依ル最上級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ最上級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス  
判任官俸給令附則ヲ削ル

明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ノ例ニ依リ五級俸以上ノ俸給ヲ受クル地方稅支辨ニ屬スル判任支官ノ級俸ノ對等ニ付テハ前數項ノ規定ニ依ラス左表ノ區分ニ依ル但シ文武判任官等級令ノ適用ニ付テハ仍從前ノ等級ヲ保有ス

|      |      |
|------|------|
| 現行俸給 | 改正俸給 |
| 特別俸  | 一級俸  |
| 一級俸  | 二級俸  |
| 二級俸  | 四級俸  |

○文官俸給支給細則

●大藏省令第十一號 明治二十五年十二月二十三日  
改正 明治二十九年第七號、三十八年第三〇號、大正九年第二五號、昭和四年第二號

第一條 高等文官及判任支官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

毎月二十一日

- 外務省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 內務省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 大藏省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 鐵道省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 拓務省及其所管經費ニ屬スル官廳

毎月二十二日

- 陸軍省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 海軍省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 司法省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 文部省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 農林省及其所管經費ニ屬スル官廳

毎月二十三日

- 商工省及其所管經費ニ屬スル官廳
- 逓信省及其所管經費ニ屬スル官廳

第二條 廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス  
高等官官等俸給令第二十八條ニ依リ殘務調理ヲ命セラレ

第九章 俸給及諸給與

別表

|     |     |
|-----|-----|
| 三級俸 | 五級俸 |
| 四級俸 | 六級俸 |
| 五級俸 | 六級俸 |

|      |       |
|------|-------|
| 一級俸  | 百六十圓  |
| 二級俸  | 百三十五圓 |
| 三級俸  | 百十五圓  |
| 四級俸  | 百圓    |
| 五級俸  | 八十圓   |
| 六級俸  | 七十圓   |
| 七級俸  | 六十圓   |
| 八級俸  | 五十圓   |
| 九級俸  | 五十圓   |
| 十級俸  | 四十圓   |
| 十一級俸 | 三十圓   |

タル者其調理翌月以降ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結了ノ日迄ヲ其際支給ス(昭和四年六月第一號)  
第三條 轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス  
第四條 他廳へ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス  
第五條 他廳へ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ  
第六條 俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス  
第七條 高等官官等俸給令第二十九條ニ依リ減給ノ者廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス(昭和四年六月第一號)  
第八條 傷疾忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ關勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス  
第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス  
日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ



○文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件

●勅令第二百六號 明治三十七年九月十三日  
文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ハ其ノ間文官俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額文官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

附則

明治二十四年勅令第六十二號(文官ニシテ豫備後備又ハ補充兵役ニアル者陸軍召集條例ニ依リ召集中俸給支給方ノ件)及明治二十七年勅令第二百九號(文官ニシテ海軍豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中俸給支給方ノ件)ハ之ヲ廢止ス

○陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方

●勅令第三百三十二號 明治三十三年三月三十一日  
陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於テハ其ノ受クヘキ俸給額ヨリ恩給額ヲ控除シタル額ヲ支給スルモノトス

○官吏療治料給與ノ件

●勅令第八十號 明治二十五年九月二十七日  
官吏ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス  
但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

○勤勉手當給與令

●勅令第五百四十五號 大正九年十一月二十二日  
改正 大正一〇年第一八八號、一二年第一二五號、第二〇五號、第四一〇號、一二年第二八三號、三年第九六號、第一九六號、第七七號、第三三三號、一四年第九七號、一五年第二二二號、昭和二年第二五八號、四年第六三號  
第一條 官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニシテ左ニ掲クル現業ニ従事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

- 一 衛生試驗所ニ於ケル現業
- 一ノ二 復興局ニ於ケル工事ノ現業
- 二 大藏省所管ノ營繕工事ノ現業
- 二ノ二 造幣局ニ於ケル現業
- 三 專賣局ニ於ケル現業
- 四 陸海軍ノ工事、製造、港務又ハ海軍採炭ノ現業
- 四ノ二 司法省所管監獄ニ於ケル現業
- 四ノ三 營林局署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二五二號ヲ以テ追加)

●大藏省令第十九號 明治三十三年四月十八日  
本年勅令第三百三十二號ニ依ル俸給支給方ハ高等官ニ在テハ年俸月割額判任官ニ在テハ月俸額ヨリ恩給年額十二分ノ一ニ相當スル額ヲ毎月控除支給スルモノトス但日割計算ヲ以テ恩給ヲ支給スルトキハ其日割支給額ニ相當スル額ヲ控除支給スルモノトス  
俸給ノ日割支給ヲ要スルトキハ恩給モ亦當月分ノ現日數ヲ以テ計算控除スルモノトス

○道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件

●勅令第四百三十號 大正十二年九月二十九日  
道廳府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス  
附則  
本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 五 製鐵所ニ於ケル現業(大正一五年七月第二五二號ヲ以テ改正)
- 五ノ二 遞信省ニ於ケル工事ノ現業
- 六 貯金局、簡易保險局、遞信局及通信官署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二五二號ヲ以テ改正)
- 七 帝國鐵道ノ現業
- 八 朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業
- 九 朝鮮總督府鐵道局、朝鮮總督府專賣局、朝鮮總督府營林署及朝鮮總督府遞信官署ニ於ケル現業(大正一五年七月第二五二號ヲ以テ改正)
- 九ノ二 朝鮮總督府監獄ニ於ケル現業(昭和二年八月第二五八號ヲ以テ追加)
- 十 臺灣總督府交通局ニ於ケル鐵道又ハ通信ノ現業(大正一五年七月第二五二號ヲ以テ改正)
- 十一 臺灣總督府專賣局及臺灣總督府殖產局營林所ニ於ケル現業
- 十二 臺灣總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業
- 十二ノ二 臺灣總督府監獄ニ於ケル現業
- 十三 關東廳遞信官署ニ於ケル現業
- 十四 樺太廳郵便局ニ於ケル現業
- 十五 樺太廳ニ於ケル鐵道ノ現業
- 十六 南洋廳ニ於ケル通信又ハ燐礦採掘ノ現業
- 十六ノ二 南洋廳ニ於ケル電燈ノ現業(昭和四年四月第六三號ヲ以テ追加)
- 十七 北海道廳ノ築港事務所及治水事務所ニ於ケル現業
- 第一條ノ二 官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員又ハ傭人ニシテ左ニ掲クル事務ニ従事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得



- 一 稅關又ハ臨時海港檢疫所ニ於ケル海港檢疫又ハ獸類若ハ獸疫病毒汚染ノ疑アル物品ノ檢疫若ハ検査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務
- 二 稅關、朝鮮總督府稅關又ハ臺灣總督府稅關ニ於ケル臨時開廳ノ場合又ハ日没ヨリ日出迄ノ間若ハ休日ニ保稅倉庫ノ開扉若ハ貨物ノ積卸搬出入其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場合ノ臨時事務
- 三 稅關ニ於ケル植物ノ輸入、移入ニ關スル検査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務
- 第二條 工場ニ服務スル技手ニシテ第一條ニ該當セサル者ヲシテ定時間外ニ服業セシメタル場合ニハ日額ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得
- 第三條 前三條ノ規定ニ依リ給スル手當ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム
- 第四條 法律又ハ勅令ニ依ルニ非サルハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年勅令第四百四十八號(定時間外服業ノ技手ニ日額給與ノ件)

- 第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ千分ノ二十ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス
- 第三條 臺灣總督ハ臺灣總督府專賣局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第四條 臺灣總督府專賣局ノ職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給給料ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス
- 第五條 (昭和三年六月第一〇九號ヲ以テ削除)

附則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

(大正十四年七月二十九日臺灣總督府令第四十號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

○臺灣總督府遞信局及臺灣總督府郵便局現業員共濟組合ニ關スル件

●勅令第二百七十九號 大正二年九月十七日  
明治四十二年勅令第五百一十一號ハ臺灣總督府(民政部通信局 及臺灣總督府郵便局雇員以下ノ現業員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス但シ同令中遞信大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行フ

- 明治三十六年勅令第四十八號(爲替貯金局及地方遞信官署現業員勤勉手當ノ件)
- 明治三十七年勅令第五百五十五號(專賣局煙草製造所職員手當及年功加俸ニ關スル件)
- 明治三十七年勅令第七十號(煙草製造及鹽加工ノ現業ニ從事スル判任官及雇員勤勉手當ニ關スル件)
- 明治三十九年勅令第三百五號(製鐵所及林区署ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ノ勤勉手當ニ關スル件)
- 明治四十年勅令第八號(陸海軍ノ工事製造其他海軍港務ノ現業ニ從事スル判任官及雇員勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十年勅令第六十四號(大藏省臨時建築課現業從事判任官及雇員勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十一年勅令第六號(關東都督府通信官署現業從事者ニ勤勉手當給與ノ件)
- 明治四十三年勅令第二百一十一號(衛生試驗所現業從事判任官及雇員ノ勤勉手當ニ關スル件)
- 大正三年勅令第一百七號(朝鮮總督府營林廠ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ノ手當ニ關スル件)
- 大正七年勅令第三百一十一號(臨時議院建築局現業從事員ニ勤勉手當給與ノ件)
- 大正七年勅令第四百號(朝鮮總督府遞信官署現業從事員ニ勤勉手當給與ノ件)
- 大正九年勅令第二十五號(朝鮮總督府及其所屬官署ニ於ケル工事ノ現業ニ從事スル職員ノ勤勉手當ニ關スル件)

附則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府(鐵道部)現業員ノ共濟組合ニ關スル件

●勅令第四十九號 明治四十二年三月二十九日  
改正 大正二年第六〇號  
明治四十年勅令第二百二十七號ハ臺灣總督ノ管理ニ屬スル鐵道ノ業務ニ從事スル雇員以下ノ現業員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東廳遞信官署現業員ノ共濟組合ニ關スル件

●勅令第五百十號 大正九年十月二十五日  
改正 昭和三年第一〇九號  
第一條 關東廳遞信官署所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス



第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額

ノ千分ノ二十四ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 關東長官ハ關東廳遞信官署ノ職員ヲシテ組合ノ事

務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 關東廳遞信官署ノ職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ

非サルモ關東長官ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコト

ヲ得但シ其ノ俸給給料ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セ

ス

第五條 (昭和三年六月第一  
〇九號ヲ以テ削除)

附則

本令ハ大正九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

ノ百分ノ二三當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 樺太廳長官ハ樺太廳、樺太廳鐵道事務所及樺太廳

郵便局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局ノ職員ハ第一條

ニ定ムル現業員ニ非サルモ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ

組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給給料ハ第二條ノ給

料總額ニ之ヲ算入セス

第五條 (昭和三年六月第一  
〇九號ヲ以テ削除)

附則

本令ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局  
現業員ノ共濟組合ニ關スル件

●勅令第三百六十一號 大正八年七月二十六日

改正 昭和三年第二〇九號

第一條 樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局所屬ノ雇員以下

ノ現業員ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的

トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額

罹リタルトキ亦前項ニ同シ

第三條 府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ五

十萬圓トス

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲地租、所得稅(第二種  
ニ對スル所)及「營業稅」ノ府加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ

得稅ヲ除ク)ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得但シ前條ノ制限額ニ達シタル

ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得但シ前條ノ制限額ニ達シタル

府縣ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 (削除)

第六條 罹災救助基金ヨリ生ズル收入ハ總テ罹災救助基金

ニ編入スヘシ

第七條 第二條ノ支出額カ其ノ年度初ノ罹災救助基金現在

高ノ百分ノ五ヲ超過シ且其ノ支出殘額カ第三條ノ制限額

ニ不足スルトキハ國庫ハ其ノ超過支出額三分ノ一ノ補助

金ヲ府縣ニ交付ス但シ補助金ノ額カ不足額ヨリ多キトキ

ハ之ヲ其ノ不足額ニ止ム

第八條 罹災救助ノ爲罹災救助基金ヲ支出スヘキ費目左ノ

如シ

- 一 避難所費
- 二 食料費
- 三 被服費
- 四 治療費
- 五 小屋掛費

○罹災救助基金法

●法律第七十七號 明治三十二年三月二十二日

改正 明治三十八年第三六號、四十二年第二九號、大正五年第三〇號、七年第一九號

第一條 府縣ハ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ

第二條 罹災救助基金ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル非常災

害ニ罹リタル者ヲ救助スル爲支出スルモノトス

罹災ノ範圍前項ニ該當セサルモ多數ノ人民同一ノ災害ニ

第九章 俸給及諸給與



第九章 俸給及諸給與

- 六 就業費
- 七 學用品費
- 八 運搬用具費
- 九 人夫費

第九條 避難所費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル避難所ヲ設クル費用ニ充ツ

第十條 食料費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル焚出ヲ爲シ又ハ食品ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十一條 被服費ハ罹災者自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テ被服ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十二條 治療費ハ災害ノ際罹災者ノ傷疾疾病ヲ治療スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ費用ニ充ツ

第十三條 小屋掛費ハ災害ノ際罹災者ノ爲ニ必要ナル小屋掛ヲ爲シ又ハ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十四條 就業費ハ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依賴シ業務ニ従事スル者ニシテ罹災ノ爲其ノ資料又ハ器具ヲ亡失シタルモノニ就業ノ爲必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ給與スルノ費用ニ充ツ

第十四條ノ二 學用品費ハ災害ニ罹リタル尋常小學校兒童ニ就業ノ爲必要缺クヘカラサル教科書又ハ文房具ヲ給與スルノ費用ニ充ツ

第十四條ノ三 運搬用具費ハ災害ノ際罹災者救助ノ爲必要ナル船車馬其ノ他ノ運搬用具借入ノ費用ニ充ツ

第十四條ノ四 人夫費ハ災害ノ際罹災者救助ノ爲必要ナル

人夫備入ノ費用ニ充ツ

第十四條ノ五 罹災救助ハ地方長官ニ於テ必要アリト認めタル場合ニ限り金錢ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條 第三條ノ制限額以上ニ達シタル府縣ノ郡市町村ニ於テ罹災救助ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ地方長官ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ該制限額ヲ下ルニ至ラサル範圍内ニ於テ罹災救助基金ヨリ補助スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ資金監督ノ方法ヲ設クヘシ

第十六條 罹災救助基金ノ管理支出又ハ補充ニ關スル方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

内務大臣及大藏大臣ハ必要ト認めル場合ニ於テハ罹災救助基金ノ管理方法ヲ指定スルコトヲ得

第十七條 罹災救助基金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四號書式 預金取扱店變更申込書

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名)

日本銀行(何店)宛

記

金

預金現在高

○預金部地方資金貸付規程

●大藏省達第二號 昭和三年十一月九日

第一章 總則

第一條 預金部地方資金ノ貸付ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

第二條 預金部地方資金ハ之ヲ左ノ八種トス

- 一 公共團體普通事業資金
- 二 社會事業資金
- 三 耕地整理事業資金
- 四 產業組合事業資金
- 五 森林組合事業資金
- 六 漁業組合事業資金
- 七 畜産組合事業資金
- 八 重要輸出品工業組合事業資金

第二章 貸付先

- 第三條 本資金ハ左記ノ者ニ限り之ヲ貸付クルコトヲ得
  - 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
    - イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合
    - ロ 水利組合及北海道土功組合
  - 二 社會事業資金ニ在リテハ
    - イ 道、府、縣、市、町、村及市町村組合
    - ロ 住宅組合
    - ハ 產業組合



- 二 營利ヲ目的トセサル法人
  - 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
    - イ 耕地整理組合
    - ロ 耕地整理組合聯合會
    - ハ 耕地整理共同施行者
    - ニ 耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道、府、縣、市、町、村及市町村組合
  - 四 産業組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 産業組合
    - ロ 産業組合聯合會
  - 五 森林組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 森林組合
  - 六 漁業組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 漁業組合
    - ロ 漁業組合聯合會
  - 七 畜産組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 畜産組合
    - ロ 畜産組合聯合會
  - 八 重要輸出品工業組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 重要輸出品工業組合
    - ロ 重要輸出品工業組合聯合會
- 第四條 本資金ノ貸付ヲ受クル者ハ左記ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 財務ノ整理良好ナルコト
  - 二 事業ノ計劃及償還ノ見込確實ナルコト
- 産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、重要輸出品工業組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三事業年度ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第三章 資金ノ用途
- 第五條 本資金ハ左記ノ用途ニ對シ之ヲ貸付クルモノトス
- 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
    - イ 灌溉、排水及水害豫防費
    - ロ 隔離病舎、結核療養所及傳染病院建設費
    - ハ 上水道及下水道費
  - ニ 墓地、汚物取扱場、火葬場及塵芥處分場費
  - ホ 屠場費
  - ヘ 道路、河川及港灣修築並砂防ニ關スル負擔金
  - ト 道路及橋梁費
  - チ 河川及港灣費
  - リ 開墾及埋立事業費
  - ヌ 小學校建設費
- ル 前各號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金
- 一 社會事業資金ニ在リテハ
    - イ 住宅ノ建設費
    - ロ 公益質屋費
    - ハ 公益市場費

- ニ 簡易宿泊所費
  - ホ 託兒所費
  - ヘ 職業紹介所費
  - ト 其ノ他ノ社會事業費
  - チ 前各號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金
  - 三 耕地整理事業資金ニ在リテハ
    - イ 耕地整理ニ關スル事業費
    - ロ 前號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金
  - 四 産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金及重要輸出品工業組合事業資金ニ在リテハ
    - イ 當該組合及同聯合會ノ事業費
    - ロ 前號ノ目的ノ爲ニ起シタル舊債ノ償還資金
- 第四章 資金ノ割當
- 第六條 地方資金借入ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ第二章及第三章ノ規定ニ該當スルヤ否ヤヲ調査シ特ニ本資金ヲ必要トスルモノヲ定メ毎年三月三十一日迄ニ其ノ翌年度内ニ借入ヲ要スヘキ金額ヲ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ内務大臣ニ、第二條第三號乃至第七號ノ資金ニ在リテハ農林大臣ニ、第二條第八號ノ資金ニ在リテハ商工大臣ニ申出ツヘシ但シ爾後借入ノ必要ヲ生シタルモノニ付テハ期日經過後ト雖申出ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 前條ノ規定ニ依リ地方長官ノ申出アリタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ之ヲ調査シ大藏大臣ニ

- 協議ノ上割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ規定ニ依リ割當額ヲ決定シタルトキハ内務大臣、農林大臣及商工大臣ハ直チニ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス
- 第八條 地方長官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ預金部資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 資金ノ供給ヲ受ケムトスルモノノ公共團體ナルトキハ預金部資金供給稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達スルモノトス但シ起債ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノニ付テハ起債許可稟請書類正副二通ヲ内務大臣ニ進達シ之ニ代フルコトヲ得
  - 二 資金ノ供給ヲ受ケムトスルモノノ公共團體以外ノモノナルトキハ其ノ資金借入手續ニ付法令其ノ他ノ規定ニ違反スルコトナキヤ及借入金ノ償還能力確實ナリヤ否ヤヲ調査シ適當ト認メタルトキハ銀行其ノ他ノ經由機關ニ協議シ供給金額ヲ決定スヘシ
- 第九條 前條第一號ノ場合ニ於テハ内務大臣及大藏大臣ハ預金部資金供給ノ決定ヲ爲シ其ノ旨ヲ地方長官ニ通知スルモノトス但シ起債ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可アリタルコトヲ要ス
- 第十條 前條ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ道、府、縣又ハ六大都市ニ對シ貸付ク場合ヲ除クノ外稟請書類本ヲ添へ取扱銀行ニ通知スル



モノトス

第十一條 地方長官ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ヲ爲シタルトキハ其ノ都度第二條第二號ニ關スルモノハ内務大臣及大藏大臣ニ、第二條第三號乃至第七號ニ關スルモノハ農林大臣及大藏大臣ニ、第二條第八號ニ關スルモノハ商工大臣及大藏大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 地方長官ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ヲ爲シタル後之カ變更ヲ爲サムトスルトキハ第八條第二號及前條ノ規定ヲ準用ス

第五章 貸付

第一節 總則

第十三條 道、府、縣及六大都市ニ對スル貸付ハ直接預金部ニ於テ當該地方債引受ノ方法ニ依ルモノトス

前項以外ノモノニ對スル貸付ハ北海道ニ於テハ北海道拓殖債券、府縣ニ於テハ勸業債券及農工債券引受ノ方法ニ依ルモノトス

産業組合及産業組合聯合會ニ對スル貸付ハ前項ノ債券ノ外産業債券引受、重要輸出品工業組合及重要輸出品工業組合聯合會ニ對スル貸付ハ前項ノ債券ノ外産業債券引受ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十四條 前條ノ規定ニ依リ引受クヘキ地方債及債券ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要ナル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年

以內ト爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ノ預金部資金貸付ハ定期又ハ年賦トシ産業組合中央金庫及日本勸業銀行ノ預金部資金貸付ハ定期又ハ手形割引トス

前項ノ定期貸付ノ償還期限ハ五年以内トシ年賦貸付ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要ナル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以內ト爲スコトヲ得

第二節 地方債ノ引受

第十六條 道、府、縣及六大都市ニ於テ預金部資金供給決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方債引受請求書ニ償還年次表ヲ添ヘ大藏省預金部ニ提出スヘシ但シ證券發行期日ハ引受請求書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條 大藏省預金部ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ地方債ノ引受ニ關スル命令ヲ日本銀行ニ發スヘシ

第十八條 日本銀行ニ於テ前條ノ命令ヲ受ケタルトキハ地方債ノ引受ヲ爲スヘキ旨ヲ道、府、縣又ハ六大都市ニ通知シ證券發行日ニ道、府、縣、市金庫(又ハ市收入役)ニ對シ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 日本銀行ハ前條ノ規定ニ依ル拂込金ニ對シ證券ヲ受領シ之カ保管ノ手續ヲ爲スヘシ

興業債券及産業債券引受

第二十條 日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定アリタルトキ及第二十條ノ規定ニ依リ預金部資金供給決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ貸付資金ノ交付ヲ受クル爲大藏省預金部ニ對シ債券ノ引受ヲ申請スヘシ

日本勸業銀行及産業組合中央金庫ハ第八條第二號ノ規定ニ依リ預金部資金供給ノ決定アリタルトキハ貸付資金ノ交付ヲ受クル爲大藏省預金部ニ對シ債券ノ引受ヲ申請スヘシ

第二十一條 大藏省預金部ニ於テ前條ノ規定ニ依リ債券引受ノ申請ヲ受ケタルトキハ第十七條乃至第十九條ノ例ニ依リ之カ引受ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本勸業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ前二條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スヘシ

第二十三條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本勸業銀行及産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且ツ左記事項ヲ規定スヘシ

一 債務者カ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ互リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セザルトキハ之ヲ返還スルコト

二 大藏省預金部ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報

第十章 預金及有價證券

告ヲ徴スルコトアルヘキコト

第二十四條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本勸業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ勸業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券又ハ産業債券ノ拂込ヲ受ケタル金額中貸付不用ニ歸シタルモノアルトキハ直ニ其ノ金額ニ相當スル債券ノ償還ヲ爲スヘシ但シ券面額ニ充タサル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十五條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本勸業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スヘシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號ニ關スルモノハ内務大臣、大藏大臣及地方長官ニ、第二條第三號乃至第七號ニ關スルモノハ農林大臣、大藏大臣及地方長官ニ、第二條第八號ニ關スルモノハ商工大臣、大藏大臣及地方長官ニ提出スヘシ

第二十六條 道、府、縣及六大都市ニシテ其ノ地方債發行ニ依リ交付ヲ受ケタル預金部資金ヲ轉貸スル場合ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用シ貸付報告書ハ内務大臣、大藏大臣及地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第六章 償還及利子拂

第二十七條 道、府、縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本勸業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於テ預金部引受ニ係ル債券ノ元利金ノ支拂ヲ爲サムトス



ルトキハ日本銀行本店ニ對シ元利金内譯書ヲ添ヘテ送金シ大藏省預金部ニハ之ニ關スル元利金支拂計算書ヲ送付スヘシ

第二十八條 大藏省預金部ニ於テ前條元利金ノ受入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ納入ニ關スル命令書ヲ日本銀行ニ發スヘシ

日本銀行ニ於テ前項ノ命令ヲ受ケタルトキハ之カ納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第七章 雜則

第二十九條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ニ於ケル預金部資金ノ勘定ハ別ニ帳簿ヲ設ケ他ノ勘定ト區別スヘシ

第三十條 道、府、縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ産業組合中央金庫ハ毎年十二月末日現在ヲ以テ預金部資金ノ使用又ハ貸付狀況ヲ翌年二月末日迄ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第三十一條 本規程ハ昭和三年十一月七日ヨリ之ヲ施行ス第三十二條 地方貸付資金取扱順序、耕地整理事業及産業組合資金取扱順序、森林組合資金取扱順序、漁業組合資金取扱順序及畜産組合資金取扱順序ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 従前ノ取扱順序ニ依リ供給シタル低利資金ノ取扱ニ付テハ本規程ヲ準用ス







府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ六億三百七十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附則 本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣事業公債法

●法律第十三號 大正十一年三月二十八日  
改正 大正二年第一五號、昭和二年第二號、四年第一五號

第一條 臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億五千二百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正八年三月十九日前募集シタル臺灣事業公債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○關東州事業公債法

●法律第十五號 大正十一年三月二十八日

第一條 關東州ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ七百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太事業公債法

●法律第二十一號 大正七年三月三十日

改正 大正九年第四六號、一〇年第二九號、一二年第一四號、一二年第一六號

○郵便年金積立金運用規則

●勅令第二百十八號 昭和三年八月三十一日

第一條 郵便年金特別會計法ニ依ル積立金ハ逓信大臣之ヲ管理スベシ

第二條 積立金ハ郵便年金法第十五條ノ規定ニ依リ年金契約者又ハ年金受取人ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シ公債ヲ購入シ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スベシ

第三條 所管大臣ハ毎年度積立金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ簡易生命保險積立金運用委員會ニ付議スベシ其ノ豫定ノ計畫ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第四條 積立金ニシテ放資ニ至ラザルモノハ一時之ヲ大藏省預金部ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條 所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命ジテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムベシ

五 借主ノ主タル事務所

貸付金ノ受領時期ニ在リテハ其ノ分別金額トモハ之ヲ前項ノ借入申込書正副二通ニ附記スヘシ

第八條 前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計畫、豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年度ノ歳入歳出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル書類並左ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添附スヘシ

一 地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アルモノハ其ノ規約ノ謄本

二 公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最近年度事業報告書ノ謄本

三 前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約及最近年度事業報告書ノ謄本、貸借對照表及財産目錄

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタルトキ速ニ之ヲ其ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局及簡易保險局ニ送付スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



○郵便年金積立金貸付ニ關スル件

●逓信省令第六十號 昭和三年十二月六日  
郵便年金特別會計法ニ依ル積立金ハ郵便年金積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ地方自治團體ニ對シ貸付ヲ爲ス  
簡易生命保險積立金貸付規則ハ本令ニ依ル貸付ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和三年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

○貨幣法

●法律第十六號 明治三十年三月二十九日

改正 明治三十九年第二十六號、四〇年第六號、大正五年第八號、七年第四二號、九年第五號、二年第七三號

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス  
第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス  
第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス  
金貨幣  
二十圓  
十圓  
五圓  
銀貨幣

○臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律

●法律第五十六號 昭和二年五月九日

第一條 政府ハ臺灣統治ノ必要上臺灣ニ於ケル金融機關ヲシテ其ノ機能ヲ維持セシムル爲メ又ハ海外ニ於ケル帝國ノ信用ヲ維持スル爲メ必要アリト認ムルトキハ日本銀行ヲシテ臺灣ニ於ケル金融機關ニ對シ手形割引ノ方法ニ依リ二億圓ヲ限ル資金ノ融通ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二條 日本銀行ヲシテ前條ノ融通ノ爲ニスル手形割引ヲ爲サシムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ一年トス  
第三條 政府ハ本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ同行ニ對シ二億圓ヲ限リ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得  
第四條 本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ日本銀行特別融通及損失補償法第五條ノ特別融通損失審査會之ヲ決定ス  
第五條 日本銀行特別融通及損失補償法第三條、第四條第二項及第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル融通、之ニ因ル日本銀行ノ損失及其ノ補償ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○絲價安定融資補償法

●法律第十四號 昭和四年三月二十八日

第一條 生絲ノ價格ガ一般經濟狀況ニ照シ異常ナル低落ヲ爲シ蠶絲業ノ基礎ヲ危クスル虞アル場合ニ於テ其ノ價格ノ安定ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ政府ハ銀行ガ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ノ定ムル條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ因リ損失ヲ受ケタル銀行ニ對シ其ノ損失ニ付補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ者ニ對シ銀行ガ前項ノ條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
一 生絲ノ問屋  
二 主務大臣ガ絲價委員會ノ議ヲ經テ適當ト認ムル者  
前二項ノ規定ニ依リ政府ガ損失補償ノ契約ヲ爲スニ付テハ絲價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス  
絲價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 損失補償ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年トス  
第三條 損失補償ノ契約ニ基キ政府ノ支拂フベキ損失補償金ノ總額ハ三千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ



第四條 第一條ノ損失ハ銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ニ付債權ノ辨濟ヲ受ケ尙不足アルトキ其ノ不足分トス前項ノ損失ニ付政府ノ補償スベキ額ハ損失補償ノ契約ニ定ムル金額ノ制限其ノ他ノ條件ニ從ヒ絲價安定融資補償審査會之ヲ決定ス

第五條 銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ヲ債權ノ辨濟ヲ受クル爲處分セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 政府ガ銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ主務大臣之ヲ定ム

第九條 損失ノ補償ヲ受ケタル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ債權ノ取立ヲ爲シ其ノ取立金ヲ政府ニ納付スベシ

銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ問屋其ノ他生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ノ爲ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス者ヲシテ其ノ取扱ニ係ル生絲ノ販賣代金中ヨリ前項ノ債權ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 損失ノ補償ヲ受クルノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ損失補償ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ損失補償金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 主務大臣本法施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者及第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其ノ事業又ハ財產ニ關スル報告ヲ爲サシメ、其ノ事業又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本法ノ適用ニ付テハ產業組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律

●法律第五十一號 大正十五年四月六日

第一條 海軍軍備補充計畫遂行ノ爲政府ノ爲シタル勸告ニ基キ軍艦、兵器又ハ其ノ材料ノ製造ニ必要ナル施設ヲ爲シタル會社カ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ軍艦及兵器製造計畫ノ變更ノ爲被リタル損害ニ對シテハ本法ニ依リ之ヲ補償スルコトヲ得

第二條 前條ニ規定スル補償金ノ總額ハ二千萬圓以內トス

第三條 補償金ハ主務大臣補償審査會ノ審査ヲ經テ之ヲ決定シ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス

補償審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第五條 本法ニ依リ補償金ヲ交付スル場合ニ於テハ政府ハ相手方ニ對シ補償ノ目的タル設備ノ無償讓渡其ノ他必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



○獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件

(參照 本件ハ憲法第八條ニ依リタルモノニシテ大正九年七月帝國議會承諾濟)

●勅令第四十八號 大正九年三月二十五日

第一條 政府ハ獨逸國、奧地利、洪牙利國若ハ土耳其國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ申告ヲ命スルコトヲ得

第三條 當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ關シ調査ノ爲必要ナル場所ニ立入り若ハ検査ヲ爲シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條 第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管理命令ヲ以テ之ヲ開始ス

管理命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條 當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル旨ノ登記又ハ登録ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産債權ナルトキハ管理財産タル旨ヲ債

務者ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スヘキ財産ノ管理ハ登記若ハ登録又ハ通知アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條 前二條ノ規定ハ財産ノ管理ヲ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 當該官廳ハ管理財産ノ所有者又ハ保管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條 管理ニハ財産ノ換價其ノ他ノ處分ヲ包含ス 政府力擔保權ノ目的タル管理財産ヲ換價シタルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第九條 第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ屬スル管理財産ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 管理財産ハ管理ニ依リテ生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ強制執行又ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 財産ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル管理財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第十二條 財産ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財産ノ隱匿、處分、毀棄ヲ爲シ若ハ爲サムトスル行爲アリタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十三章 震災ニ關スル法令

○高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律

●法律第十號 大正十三年七月二十二日

改正 一五年第四八號、昭和四年第二五號

大正十二年九月ノ震災ニ基ク復舊諸費ニシテ東京帝國大學、東京商科大學、千葉醫科大學及東京工業大學ニ關スルモノハ大學特別會計法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一般會計ノ所屬トス(昭和四年三月第二五號ヲ以テ改正)

帝國大學特別會計ノ資金中東京帝國大學農學部及航空研究所ノ用ニ供スル土地及建造物、官立大學特別會計ノ資金中東京商科大學ノ用ニ供スル土地及建造物並學校及圖書館特別會計ノ資金中東京女子高等師範學校、東京高等蠶糸學校及東京外國語學校ノ用ニ供スル土地及建造物ニシテ此等諸學校ノ震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ノ結果不用ニ歸スヘキモノハ當該資金ヨリ之ヲ拂出スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設ケル件

●勅令第四百六號 大正十二年九月七日

震災ニ基ク特別ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ於テハ大藏大臣ハ會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設ケルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災救護ノ爲ノ恩賜金及寄附金等ノ取扱ニ關スル件

●勅令第四百二十二號 大正十二年九月二十二日

第一條 震災救護ノ爲ノ恩賜金及震災救護ノ目的ヲ以テスル寄附ニ係ル現金、有價證券其ノ他ノ物件ハ本令ニ依リ臨時震災救護事務局ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條 有價證券及直接救護ノ用ニ適セサル物件ハ之ヲ換價スルコトヲ得

第三條 預入ニ係ル現金ニ對シテハ大藏省預金部ハ通常預



金利子ヲ附スヘシ

現金ニ關スル出納官吏ノ取扱手續ニ付テハ資金前渡官吏  
現金取扱ノ例ニ準スヘシ

附則

本令ハ大正十二年九月二日ヨリ之ヲ適用ス

○震災救護義捐金出納事務規程

●大藏省令第十八號 大正十二年九月二十六日

第一節 總則

第一條 震災救護ノ目的ヲ以テ寄附ニ係ル現金、有價證券  
及有價證券其ノ他ノ物件ノ換價代金並利子ハ本令ニ依リ  
之カ取扱ヲ爲スヘシ

前項ノ現金ハ之ヲ義捐金ト稱ス

第二條 臨時震災救護事務局義捐部專任委員ヲ主任出納官  
吏トシ北海道廳長官及府縣知事ヲ分任出納官吏トス

前項ニ掲クル者ノ外必要アルトキハ臨時震災救護事務局  
總裁ニ於テ分任出納官吏ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ出納官吏タル者ハ當然義捐金取扱主  
任官及有價證券取扱主任官タル職務ヲ兼掌スルモノトス

第三條 震災救護ノ爲ノ恩賜金ハ本令ニ準シ取扱フヘシ

第二節 義捐金ノ保管出納

第四條 主任出納官吏又ハ臨時震災救護事務局總裁ノ特ニ  
指定シタル分任出納官吏ニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 出納官吏義捐金ヲ領收シタルトキハ適宜ノ領收證  
書ヲ交付スヘシ

第六條 義捐金取扱主任官ハ義捐金ヲ大藏省預金部ニ預入  
ルヘシ

第七條 義捐金取扱主任官ハ其ノ任地所在ノ日本銀行(本  
店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ預金取扱  
店ト爲スヘシ

第八條 義捐金取扱主任官義捐金ヲ預入レムトスルトキハ  
其ノ資格氏名及印鑑ヲ日本銀行ニ届出ツヘシ

第九條 義捐金取扱主任官預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキ  
ハ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金  
部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第十條 分任出納官吏ハ主任出納官吏ニ對シ毎土曜日ニ義  
捐金收支ノ現況ヲ報告スヘシ

第十一條 義捐金取扱主任官預金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付  
スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求シ  
送金濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第十二條 義捐金取扱主任官現金ノ支拂ヲ爲サムトスルト  
キハ出納官吏事務規程第三十一條及第三十四條ノ規定ニ

○各會計名及收支整理期間一覽

| 所管別   | 會計名         | 法令        | 小切手振出     |         |         | 日本銀行取扱  |         | 備考 |
|-------|-------------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|----|
|       |             |           | 支         | 出       | 換       | 額       | 入       |    |
| 外務省所管 | 對支文化事業      | 大正二、三、三六  | 大正一〇、四八   | 四月三十日迄  | 五月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄  |    |
|       | 健康保險        | 大正一五、三、二九 | 大正四、六、二   | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 造幣局(資金部)    | 法律九       | 大正四、六、二   | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 印刷局         | 明治三三、一七   | 大正三、三、一七  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 專賣局         | 明治三三、一七   | 大正三、三、一七  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 大藏省預金部      | 大正一四、三、三〇 | 大正一四、三、三〇 | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 教育基金        | 明治三三、一八〇  | 明治三三、一八〇  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 國債整理基金      | 明治三九、三、六  | 明治三九、三、六  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 公債金         | 大正八、三、二五  | 大正八、三、二五  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 賠償金         | 大正九、八、二五  | 大正九、八、二五  | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
| 大藏省所管 | 國有財産整理資金    | 大正一一、三、二八 | 大正一一、三、二八 | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 教育改善及農村振興基金 | 大正一四、三、一四 | 大正一四、三、一四 | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 教育改善及農村振興基金 | 大正一四、三、一四 | 大正一四、三、一四 | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |
|       | 教育改善及農村振興基金 | 大正一四、三、一四 | 大正一四、三、一四 | 三月三十一日迄 | 四月三十日迄  | 三月三十一日迄 | 三月三十一日迄 |    |

明治三三、三、二九法  
第三〇號ヲ以テ新



|       |  |        |             |      |        |        |         |        |         |
|-------|--|--------|-------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 陸軍省所管 |  | 陸軍造兵廠  | 明治三三、三三、一八八 | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 陸軍省所管 |  | 千住製絨所  | 明治三三、三三、一八八 | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 海軍省所管 |  | 海軍工廠資金 | 明治三八、二、一五六  | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 海軍省所管 |  | 海軍火藥廠  | 明治三三、三三、一七八 | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 海軍省所管 |  | 海軍燃料廠  | 明治三三、三三、一七八 | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 文部省所管 |  | 帝國大學   | 大正一〇、三、一三〇  |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 文部省所管 |  | 官立大學   | 大正一〇、三、一三〇  |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 文部省所管 |  | 學校及圖書館 | 明治四〇、三、二二七  |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 農林省所管 |  | 米穀供給調節 | 大正一〇、四、四    | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 農林省所管 |  | 家畜再保險  | 昭和四、三、二八    |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 農林省所管 |  | 製鐵所    | 大正一五、三、三一   | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 農林省所管 |  | 簡易生命保險 | 大正五、七、一〇    |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 農林省所管 |  | 郵便年金   | 大正一五、三、三〇   |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 鐵道省所管 |  | 帝國鐵道   | 明治四二、三、二二   | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |
| 鐵道省所管 |  | 朝鮮總督府  | 明治四三、九、三〇   |      | 四月三十日迄 | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  | 四月三十日迄 | 四月三十日迄  |
| 鐵道省所管 |  | 朝鮮鐵道用品 | 大正一四、三、三〇   | 當該年度 | 四月三十日迄 | 當該年度   | 三月三十一日限 | 當該年度   | 三月三十一日限 |

大正一、二、三、一七  
法律第七號ヲ以テ東  
京大政院兵工廠ヲ陸  
軍造兵廠ニ改ム

大正八、三、二五、法  
律第八號ヲ以テ新設  
海軍探炭所ヲ置キ大  
正一〇、三、三〇、法  
律第八號ヲ以テ海軍  
燃料廠ト改ム

明治三二、二、八、法  
律第一二號ヲ以テ新  
設シ大正一五、三、三  
一、法律第四六號ヲ  
以テ製鐵所特別會計  
法ヲ公布

|       |  |        |           |      |         |      |         |      |         |
|-------|--|--------|-----------|------|---------|------|---------|------|---------|
| 拓務省所管 |  | 朝鮮簡易生命 | 昭和四、五、四   |      |         |      |         |      |         |
| 拓務省所管 |  | 臺灣總督府  | 明治三〇、二、一六 |      |         |      |         |      |         |
| 拓務省所管 |  | 臺灣官設鐵道 | 明治三五、三、一八 | 當該年度 | 三月三十一日限 | 當該年度 | 三月三十一日限 | 當該年度 | 三月三十一日限 |
| 拓務省所管 |  | 關東廳    | 明治四〇、三、一〇 |      |         |      |         |      |         |
| 拓務省所管 |  | 樺太廳    | 明治四〇、三、一〇 |      |         |      |         |      |         |
| 拓務省所管 |  | 南洋廳    | 大正一、三、二二  |      |         |      |         |      |         |

- 一 特別會計ニシテ整理期間ノ記載ナキモノハ一般會計ニ準據ス
- 一 作業益金及資金ノ過剰金ニ關シテハ大正十一年三月大藏大臣達裁第三五〇號國庫内移換手續ニ依リ小切手ヲ振出サス移換請求書ヲ日本銀行ニ送付スル取扱アリ
- 一 出納官吏及出納員ノ歳入金收納ハ翌年度四月三十日限
- 一 出納官吏ノ支拂ハ翌年度四月三十日限
- 一 製鐵所用品勘定又ハ作業勘定ノ益金ヲ資本勘定ニ繰入ルル場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得
- 一 帝國鐵道會計歳入歳出金出納ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得
  - 一 出納官吏ノ領收シタル歳入金ヲ日本銀行ニ拂込ムトキ
  - 二 繰替拂ヲ爲シタル金額ニ對シ小切手ヲ振出ストキ
  - 三 鐵道益金若ハ用品勘定過剰金ヲ資本勘定ニ繰入ルルトキ又ハ用品資金補足金ヲ用品勘定ニ繰入ルルトキ
- 一 日本銀行受入ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得
  - 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ
  - 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ
  - 三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲スコトキ



池 D-24











